

第4章 学習指導

学ぶ意欲をもち、知識及び技能を確実に身に付け、活用しようとする児童生徒を育てる。

1 ねらいを明確にして、「指導と評価の計画」を作成する。

資質・能力

- (1) 児童生徒の実態や学校及び地域の特性に応じて、各教科等の年間指導計画を改善する。その際、内容の系統性や他教科等との関連、学校段階等間の円滑な接続に配慮する。
- (2) 学習指導要領の目標と育成する資質・能力、内容及び児童生徒の実態や学習状況等を踏まえ、単元（題材）の目標を明確にした上で、「指導と評価の計画」を作成する。
- (3) 児童生徒の実態と単元（題材）の目標に基づき、本時のねらいを明確にし、学習指導案を作成する。その際、育てたい児童生徒の具体的な姿を想定して指導案に位置付けた上で、その指導の手立てを準備する。

2 確かな学力の育成のために、指導の改善を進める。

主体的・対話的で深い学び

各教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点から学習・指導方法を改善する。

- (1) 生きて働く知識・技能の確実な習得
 - ア 学習活動の目的や方法、習得すべき内容を明らかにし、児童生徒のより深い理解につながるよう指導の重点化を図る。
 - イ 児童生徒の理解の状況に応じて、繰り返し指導や補充的な学習を取り入れた指導を行い、つまづきがあれば、それに対応した指導で補う。
 - ウ 既存の知識、既得の技能を関連付けて考えたり、他の学習や生活の場面で活用したりする学習活動を行い、より確実に知識及び技能を習得できるようにする。
 - エ 児童生徒との信頼関係を築きながら、集団の学習規律を高める。また、一人一人が学習習慣を身に付けることができるよう、家庭と連携しながら個別の支援を進める。
- (2) 思考力・判断力・表現力等の育成
 - ア 物事の中から問題を見だし、計画を立てて解決を図り、振り返る中で新たな問題を発見するなど、基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習過程を重視する。
 - イ 児童生徒が文章や図・表を読み取り、他の意見や考えについて解釈、批評、判断し、それらを表現するなど、各教科等の特質に応じた言語活動を充実させる。
 - ウ 小学校においては、情報手段の基本的な操作の習得に関する学習活動及びプログラミングの体験を通して論理的思考力を身に付けるための学習活動を、各教科等の特質に応じて計画的に実施する。
- (3) 学ぶ意欲の向上
 - ア 活動の手順等を分かりやすく示し、児童生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
 - イ 自分の生活体験や興味・関心を基に学習課題を選択する機会を設けるなどの導入時における意欲付けに加え、学習中や学習後にも、児童生徒の学ぶ意欲を高める手立てを行う。

問題解決的な学習過程

言語活動の充実

ウ 児童生徒が学んだことの有用性を味わうことができるよう、学習の成果を確かめ次の学習につなげたり、日常生活に生かしたりする活動を取り入れる。

エ 学習の意義について考えさせる機会を設け、学習が自分の将来の生活、夢や希望の実現につながることを認識させる。

(4) 学力の向上に向けた授業づくり

学習課題

ア 学習のねらいに迫る学習課題と発問の構成を工夫する。その際、端的で正しく伝わる表現にする。また、一人一人が考えをもつことができるよう、教師の「待つ姿勢」を大切にし、考える時間を保障する。

イ 書くことによって児童生徒の思考が深まるよう、ノートの書き方を継続的に指導する。その際、書いて考える活動を重視し、書く時間を確保するとともに、朱書きによる助言を加えるなど工夫する。

ウ 話し合い活動の場面では、一人一人の考えを引き出し、多様な考えを関連付け、分類・整理するなど、ねらいに向けて焦点化を図る。

振り返りの場

エ 児童生徒が学習課題を踏まえて学びを振り返ったり、学んだことを活用して新たに課題に取り組んだりするなど振り返りの場を工夫し、一人一人が学習の成果を確認できるようにする。

オ 児童生徒や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを効果的に活用する。

カ 家庭学習につながる課題を与えたり、次時への興味・関心を高める話題から予習を促したりする。

(5) 学び合いを支える人間関係の醸成

ア 「いのちの教育」の充実を図り、児童生徒が互いを尊重し合い、共に学ぶ温かい学習集団を育てる。

イ 各教科等の目標の達成に向けた指導を行う中で、その特質に応じて、道徳教育の内容についての適切な指導を行い、道徳性を養う。

ウ 自己決定の場や一人一人を認め励ます言葉かけや朱書き等、授業における生徒指導の機能を充実させ、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、全員が安心して学習に取り組める雰囲気醸成を図る。

エ 特別な配慮を必要とする児童生徒に対するきめ細かい支援を行うとともに、互いを認め合い支え合おうとする態度を養う。

3 一人一人の学習状況を把握し、指導に生かす。

(1) 児童生徒のよい点や進歩の状況を積極的に見取り、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

(2) 単元(題材)等内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習評価を指導の改善に生かす。

参考資料

- 授業の達人 DVD
- 授業改善に向けた対策のヒント(小学校版・中学校版)
- 小学校プログラミング教育の手引(第三版)
- 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- 家庭学習のすすめ(保護者用リーフレット [小学校版](#)・[中学校版](#))
- [StuDX Style](#)

- 富山県教育委員会 平成26～令和3年度
- 富山県教育委員会 平成26～令和5年度
- 文部科学省 令和元年度
- 文部科学省 令和2年度
- 国立教育政策研究所 令和2年度
- 富山県教育委員会 令和7年度
- 文部科学省

○教育課程研究センター
「[全国学力・学習状況調査](#)」
[国立教育政策研究所](#)



○[富山県教員応援サイト](#)
「[全国学力・学習状況調査の活用に向けて](#)」
[富山県教育委員会](#)



学習指導案の作成に当たっては、次に示すポイントを踏まえて行う。その際、単元全体を捉え、1時間の授業を構想することや、評価規準や指導と評価の計画等を具体的に設定することが重要である。また、本時の目標と評価規準、学習課題、学習活動等の整合性を確認する。

小学校 学習指導案例

第4学年 国語科学習指導案(例)

【指導案作成のポイント】

- 単元名 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう「ごんぎつね」
- 単元について(略)
- 単元の目標
 - 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 - 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
 - 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
 - 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
- 本単元における言語活動
 - 物語を読んで理解したことに基づいて、物語についての感想を書く。
- 単元の評価規準

- **単元名**
 - どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが児童に分かるように示す。
- **単元について**
 - 教材観、児童の実態、指導観の三つの視点で、指導者の考え方を明らかにする。その際、身に付けさせたい力を明記する。
- **単元の目標**
 - 〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の目標は、基本的に指導事項の文末を「～できる」として示す。
 - 「学びに向かう力、人間性等」は、いずれの単元においても学年の目標である「言葉がもつよさ～伝え合おうとする」まで示す。
- **本単元における言語活動**
 - 国語科では単元の目標を実現するために適した言語活動を、児童の学習の経験や状況を踏まえて位置付ける。
- **単元の評価規準**
 - 単元の目標と対応し、文末を「～している」とする。
 - 〔思考・判断・表現〕の冒頭には、領域名を入れる。
 - 〔主体的に学習に取り組む態度〕は、「粘り強い取組を行おうとする側面」「自らの学習を調整しようとする側面」の双方を適切に評価できるような評価規準を作成する。
 - 該当する指導事項を示すことで、学習指導要領との関連を明確にする。
- **指導と評価の計画**
 - 評価場面や評価方法を計画する。
 - どのような評価資料(児童の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に評価するかを考えたり、「努力を要する」状況と判断する児童への手立て等を考えたりする。
 - 評価の結果によって後の指導を改善し、指導の成果を再度評価する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	① 進んで文章を読んで叙述から読み取ったことに基づいて考えをもち、これまでの学習を振り返りながら、物語の感想を書こうとしている。

6 指導と評価の計画(全12時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1 3	○学習の目標や進め方を捉える。 読んで理解したことを基に、自分の考えをもち、物語の感想を書こう。 ○「ごんぎつね」を読み、内容の大体を捉える。 ○初発の感想を書き、読み合う。 ○課題の解決に向けて見通しをもつ。	・付きたい力を児童と共有し、学習の進め方について見通しがもてるようにする。 ・登場人物、主な出来事、結末等を確認する。 ・場面の様子、登場人物の言動や様子等を表す語句に着目して読むように指導する。 ・心に強く残ったこと、疑問に思ったこと等について書くように指示する。 ・初発の感想のうち、多かった感想や疑問、学級全体で話し合いたいこと等を適宜取り上げていく。	〔知識・技能①〕 ・場面の様子や登場人物の言動、様子等を表す語句に着目し、語彙を豊かにしているかの確認 (ノート・ワークシート)
4 8	○ごんの気持ちやどのように変化しているか、場面の移り変わり結び付けて考える。 ○6場面での兵十の気持ちの変化をこれまでのごんの気持ちの変化と対比させながら捉える。	・時間や出来事、物語の展開に沿った場面の移り変わり結び付けて気持ちや考えよう指導する。 ・叙述を根拠に考えることができるよう、叙述に線を引き、書き込みすることができるワークシートを用意する。 ・行動や会話の他に、情景や場面の様子がよく分かる言葉等に注目するように指導する。 ・考えを深めることができるよう、対話の場や音読の機会を設定する。 ・児童が、場面の移り変わり結び付けて登場人物の気持ちの変化を具体的に想像するために、毎時間書き溜めたワークシートを学習者用端末で撮影し、蓄積するよう促す。 ・児童が、想像したごんと兵十の気持ちを音読で表現し、自分の読みを確認できるようにする。	〔思考・判断・表現①〕 ・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認 (ノート・ワークシート)
9 12	○登場人物の気持ちの変化について考えたことを基に、感想をまとめる。 ○書いた感想を読み合う。 ○単元の学習を振り返る。	・蓄積したワークシートを用いて、これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことに基づいて、感想をまとめるよう指示する。 ・新たに考えたことや思ったことを書き加えるよう指示する。 ・単元で身に付けた力を生かして、他の作品を読むことにつなげる。	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ・文章を読んで理解したことに基づいて、物語の感想を書こうとしているかの確認 (ワークシート・観察) 〔思考・判断・表現②〕 ・文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けて自分の感想や考えを記述しているかの確認 (ノート・ワークシート)

○ 本時の学習

学習課題

- 年間指導計画に基づいた単元の目標や選定した言語活動と結び付く課題とする。

問題発見・解決能力の育成につながる学習過程

- 課題解決のための見通しをもつことができるよう、具体物の提示や既習事項の確認、ICTの活用等を工夫する。
- 児童が考えを広めたり、深めたりすることができるよう、対話の場や音読の機会を設定する。
- 見方、考え方が広がるよう、ICTを活用するなどして学びを蓄積したり、多様な考えを共有したりできるようにする。

振り返りの場

- 友達の見解と自分の見解とを比較することを通して、今の自分の学習状況を捉え、次の学習に生かすことができるようにする。

7 本時の学習(7/12時)

- 目標(略)
- 展開(略)

(「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【小学校国語】」国立教育政策研究所 令和2年度を参考に作成)

（学校訪問研修等）

4年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう「ごんぎつね」

2 単元について

- ・本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」の指導事項（1）オ「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」を重点的に取り上げる。感想や考えをもつためには、エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を指導する必要がある。
- ・児童はこれまでに、登場人物の行動や気持ち等について、叙述を基に捉えることを学んできた。この単元では、文章を読んで理解したことについて、既習の内容と結び付けて自分の考えを形成する力を身に付けさせたい。
- ・本単元の終末では、文章を読んで考えてきたことを踏まえ、物語の感想としてまとめることで、自分の読みの深まりを感じられるようにしたい。

3 全体計画（全12時間）

- ・第1次 「ごんぎつね」を読み、内容の大体を捉える・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
- ・第2次 登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて考えをまとめる・・5時間（本時4／5）
- ・第3次 登場人物の気持ちの変化について考えたことを基に、感想をまとめる・・・・4時間

4 本時の学習（7／12時）

(1) 目標 4・5・6場面の移り変わりと結び付けてごんの気持ちの変化を考えることができる。

(2) 展開

学 習 活 動（配時） ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◆評価（方法） ※「努力を要する」状況と判断する児童への手立て
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おれと同じひとりぼっちの兵十か」と感じたごんは、兵十に何かしてあげたいなと思ったんだね。 ・3場面と同じようにまたくりを持っていったけれど、つぐないが足りないと思ったのかな。それとも、兵十を励ましたかったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識を高めることができるよう、①前時の板書を大型モニターに提示して、兵十に心を寄せていくごんの気持ちをおさえる。 ・4・5場面を教師が範読し、6場面の最初を児童が音読して、全体の内容を捉えることができるようにする。 ・ごんの言葉や行動に着目して読んでいくことを確認する。
<p>「明るる日も、くりを持って兵十の家へ出かける」までのごんの気持ちの変化を考えよう</p>	
<p>2 ごんの気持ちの変化を読み取り、ワークシートに書く。（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かげぼうしをふみふみ」とあるから、人間をこわがりながらも近付いているね。2人の会話がとても気になっているんだな。 ・「おれは引き合わないな」とがっかりしているのに、さらにくりを持っていくのは、どうしても自分だと気付いてほしいからかな。それとも気付いてもらえなくてもあげたいと思ったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述を意識できるよう、②該当場面の本文に線を引き、読み取った気持ちを書くことができるワークシートを用意する。 ※ごんの気持ちが読み取れる叙述に色付けた本文を学習者用端末に配布し、教師と一緒に確認する。 ・児童が主体的に学習を進めることができるよう、③個や小集団等の学習形態を選択できるようにする。 ・児童が考えを再確認したり、新たな考えに気付いたりすることができるよう、④読み取ったことを対話や音読で確認するよう助言する。
<p>3 課題についての自分の考えを深める。（22）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読したら、かげぼうしをふむ距離まで近付いたり、家の中までくりを届けたりしているところで、少しでも自分に気付いてほしいという気持ちが実感できた。 ・神様のおかげだと思われていても、いたずらをした自分が悪いから仕方がない。自分と同じひとりぼっちの兵十が自分の持っていったくりを気にしてくれていることが分かったから、それでも十分だと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で話し合う場合は、兵十に近付きたいごんの気持ちが明らかになるよう、二人の距離に注目している児童を意図的に指名する。 ・ごんが兵十に近付き、心を寄せていくことが⑤視覚的に分かるように板書する。 <p>◆思考・判断・表現 ごんの気持ちの変化について、叙述と結び付けて具体的に想像している。〈発言・ワークシート〉</p>
<p>4 考えたことを基に感想を書き、今日の学習を振り返る。（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんは本当にさみしかった、という意見が参考になった。人間をこわがりながらもだんだん兵十に近付いていくので、自分に気付いてほしいという気持ちはあると思う。でもそれ以上に、自分と同じひとりぼっちの兵十が気になって仕方がなかったから、気付かれなくてもくりを持っていきたかったのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの深まりに気付くことができるよう、友達のもののような考えが参考になったかを視点として本時を振り返るよう伝える。 ・単元の終末で、物語の感想をまとめる際に、児童がこれまでの学習を想起できるよう、⑥ワークシートを学習者用端末で撮影、蓄積するよう促す。

<とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）>

- ・視点1「子供の問題（課題）意識を高める」手立て…①
- ・視点2「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」手立て…②

- 1 単元名 一次関数
- 2 単元について (略)
- 3 単元の目標
 - ・一次関数についての基礎的な概念や原理・法則等を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
 - ・関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。
[知識及び技能]
 - ・一次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。
[思考力、判断力、表現力等]
 - ・一次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。
[学びに向かう力、人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 一次関数について理解している。 ② 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③ 二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④ 変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤ 一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	① 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ② 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 一次関数について考えようとしている。 ② 一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

5 指導と評価の計画(全17時間)

時	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準(評価方法)
1	具体的な事象を捉え考察することを通して、問題の解決に必要な二つの変数を取り出し、それらの関係を表や座標平面上に表すことができるようにするとともに、一次関数の定義を理解できるようにする。	知		知①(行動観察)
2	いろいろな事象で二つの変数の関係を、 $y = ax + b$ で表すことを通して、事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解できるようにする。 学習を振り返り、分かったことや疑問等を記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知 態		知②(小テスト) ※小テストの結果は指導に生かす。 態①③(ノート)
3	二つの変数の関係を事象から一旦切り離して抽象化し、表から式を求めたり、式から表をつくらしたりすることを通して、一次関数の変化の割合について理解し、一次関数の表の値から変化の割合を求めることができるようにする。 一次関数の二つの数量の関係を表す表、式の相互関係を考察することを通して、一次関数の特徴を見だし表現することができるようにする。	知 思		知④(小テスト) ※理解が不十分な場合、既習の事象を関連付けて補説する。 思①(行動観察)
15本時	走った道のりが走った時間の一次関数であるとみなし、駅伝大会の6区での速報を基に追いつく地点を予測することを通して、現実的な事象から二つの数量を取り出し、理想化・単純化することにより、その関係を一次関数とみなして問題を解決することができるようにする。	思		思②(行動観察・ノート)
16	小単元3や単元全体の学習を振り返って、分かったことや疑問、問題の解決に有効であった方法等を記述することを通して、学習の成果を実感できるようにする。	思 態	○ ○	思②(小テスト) 態①～③(行動観察・ノート)
17	単元全体の学習内容についてテストに取り組み、単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価することができるようにする。	知 思	○ ○	知①～⑤(単元テスト) 思①②(単元テスト)

6 本時の学習(15/17時)

- (1) 目標 (略)
- (2) 展開 (略)

表中の「重点」は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており、「記録」は、全員の学習状況を記録に残すものに○を付けている。

○ 単元について

・教材観、生徒の実態、指導観の三つの視点で、指導者の考え方を明らかにする。その際、身に付けさせたい力を明記する。

○ 単元の目標

・学習指導要領に示された学年の目標と「内容のまとめり」で示された内容を踏まえて作成する。

○ 単元の評価規準

・単元の目標を基に設定する。
 ・[知識・技能]については、その文末を「～している」「～することができる」とする。
 ・[思考・判断・表現]については、その文末を「～することができる」とする。
 ・[主体的に学習に取り組む態度]については、その文末を「～している」とする。

○ 指導と評価の計画

・どのような評価資料を基に評価するか、「努力を要する」状況と判断する生徒への手立て等をどうするかを考える。また、「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」を適切に設定する。

○ 本時の学習

学習課題

・生徒が既習内容を用いてどのように解決するのか見通しをもつことができるよう、学習課題を設定する。

問題発見・解決能力の育成につながる学習過程

・一人一人が考えをもつことができるよう、具体物の操作やICTの活用等を通して試行錯誤する場を設定する。
 ・生徒が考えを広めたり深めたりできるよう、協働的な学習の場を工夫する。
 ・論理的に表現し伝え合う活動を取り入れる。
 ・他の考えを解釈して説明する活動を取り入れる。
 ・新しい知識を得る視点を明確にできるよう、話し合いの場において、問いかけや板書等を工夫する。

振り返りの場

・生徒が問題発見・解決の過程で気付いたことや更に調べてみたいこと等を整理して学習の成果を確認できるよう、振り返りの場を設定する。

(「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校数学】」国立教育政策研究所 令和2年度 を参考に作成)

(学校訪問研修等)

- 1 単元名 一次関数
- 2 単元について

- ・本単元では、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。
- ・生徒はこれまでに、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することを学習してきているが、比例とみなして二つの数量の関係を表やグラフで表し予測するという、理想化・単純化して活用した経験は少ない。
- ・本単元では、日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することなど、問題解決の過程を振り返り、関数を活用することのよさを実感できるようにしたい。

3 全体計画 (全17時間)

- ・第1次 一次関数とグラフ・・・・・・・・・・・・・・ 7時間
- ・第2次 一次関数と方程式・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
- ・第3次 一次関数の利用とまとめ・・・・・・・・・・・・ 6時間 (本時4/6)

4 本時の学習 (15/17時)

(1) 目標

具体的な事象における二つの数量の関係を一次関数とみなして、問題を解決することができる。

(2) 展開

学習活動 (配時) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 ◆評価 (方法) ※「努力を要する」状況と判断する生徒への手立て
<p>1 前時の学習を振り返る。 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車は一定の速さで進むと考えると、一次関数と考えてよい。 ・標高が100m上昇するごとに、気温が0.6℃下がる。これも一次関数と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①前時に生徒が考えた、一次関数を活用できそうな身のまわりの事象について確認する。
<p>【問題】ある駅伝競走大会の6区の道のりは12000mあり、6区のスタート地点では、立山大学が先にスタートし、神通大学がその200秒後にスタートしました。光さんは、インターネットで6区の速報を見て、神通大学が立山大学に追い付きそうだと考え、途中の記録を表にまとめました。追い付くことができるでしょうか。</p>	
<p>2 問題を解決するための見通しをもつ。 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1200mで22秒縮まっているから、表の続きを考えていけば分かる。 ・前回の授業で学習したように、一次関数とみなしてグラフに表したら追い付く場所が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトを活用して、効率よくグラフに表せるようにする。また、方眼用紙も用意して、生徒が(自己)選択できるようにする。 ・①問題解決の見通しをもてるよう、ICTを活用して点がほぼ一直線上に並んでいることを可視化し、一次関数とみなすことができることを全員で共有する。
<p>学習課題 一次関数とみなして問題を解決する方法を考えよう</p>	
<p>3 学習課題の解決に取り組み、全体で共有する。 (25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは自分と同じ方法で考えているので相談してみよう。 ・表から1200mの記録を10倍すると追い付かない。[誤答] ・表を使って、12000mのときの時間を考えると逆転するから、どこかで追い付く。 ・グラフに表すと、交点のx座標はだいたい2200で、y座標は10000と12000の間だから、追い付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・②学習方法を自己決定したり、考えを見直したりできるように、電子黒板を活用して取組状況を可視化する。 ※[誤答]のように考えている生徒には、1200mを走るのにかかった時間を基に考えたらよいことに気付くよう支援する。 ※つまづいている生徒を把握し、実態に応じて同じ方法で考えている生徒との関わりを促したり、個に応じた指導を行ったりする。
<p>4 本時の学習のまとめをする。 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次関数とみなすことで、2直線が交わっているところを見付ければ解決できる。 ・表から変化の割合を求めれば解決できる。 ・2直線の式をつかって、交点の座標を求めれば、追い付く時間と地点が分かるので解決できる。 	<p>◆思考・判断・表現 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。〈行動観察・ノート〉</p> <p>※全員が表、グラフを用いた方法を理解できるよう、全体では説明の不十分な点を補う発言を促す。また、実態に応じて誤答を取り上げ、どこがなぜ違うのかを考える機会を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な事象を、一次関数とみなして数学的に考えるよさや表、グラフを活用した方法で問題解決できることを確認するとともに、①式のよさに着目していた生徒の発言を取り上げ、次時の学習課題につなげる。
<p>5 本時の学びを振り返り、全体で共有する。 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表から変化の割合を求めて考えたけれど、〇〇さんのようにグラフを用いて考える方が簡単だ。しかし、時間や地点等の数値を求めるには、グラフよりも式の方がよいと思うので、次は式で考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・②学習した解決方法が次時に生かされるよう、学習の成果に加えて、次時に使いたい方法とその理由を振り返りの視点として示す。

〈とよま型学力向上プログラム (Ⅲ期) 〉

- ・視点1 「子供の問題 (課題) 意識を高める」手立て…**①**
- ・視点2 「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」手立て…**②**

「全国学力・学習状況調査授業アイデア例【中学校数学】」国立教育政策研究所 令和5年度を参考に作成



言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する児童を育てる。

I 現状と課題

1 「考えの形成」を重視する言語活動の充実

興味・関心や意欲が高まるよう、「好きなことを紹介する」「物語を読み、考えを伝え合う」などの言語活動が設定されている。今後は、目的に応じて文章を要約したり、複数の情報の関係を捉えて読んだりすることができるよう、指導事項を明確にして指導する必要がある。

2 語彙を豊かにする指導

語句の意味を理解できるよう、動作化や短作文を取り入れた指導が行われている。さらに、語句の量を増やし、適切に表現できるよう、多様な語句を取り上げ、意味や用法を正しく捉え言葉を吟味して表現させる指導が必要である。

II 方策

1 「考えの形成」を重視する言語活動の充実

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、「考えの形成」に関する学習過程を重視する。指導事項を指導するために効果的な言語活動を学習過程に位置付け、その言語活動を通して育成すべき資質・能力を身に付けることができるようにする。

(1) 「話すこと・聞くこと」

ア 「説明や報告等、調べたことを話したり聞いたりする」などの言語活動を設定し、相手に伝わるように事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えるように指導する。

イ 「賛成又は反対等のそれぞれの立場から考えを伝えて話し合う」などの言語活動を設定し、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめるように指導する。

(2) 「書くこと」

ア 「調べたことをまとめて報告する」などの言語活動を設定し、相手や目的を意識して、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にするなど、書き表し方を工夫するように指導する。

イ 「事象を説明したり意見を述べたりする」などの言語活動を設定し、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書いたり、引用したりするなど、自分の考えが伝わる書き表し方を工夫するように指導する。

(3) 「読むこと」

ア 「説明や解説等の文章を比較して読む」などの言語活動を設定し、目的に応じて文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方を考えたりして自分の考えをまとめるように指導する。

イ 「物語等を読み、考えたことを伝え合う」などの言語活動を設定し、登場人物の気持ちの変化や人物像、物語の場面の移り変わりや全体像を具体的に想像した上で、感想や考えをもつことができるように指導する。

2 語彙を豊かにする指導

(1) 意味を理解して日常生活の中で使いこなせる語句を増やすことができるよう、辞書や辞典を利用して調べる活動を取り入れ、身近なことを表す語句、思考に関わる語句等をまとまりとして段階的に指導する。

(2) 話や文章を正確に理解し、言葉や文章で適切に表現することができるよう、話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、事柄の順序、原因と結果等の関係を捉えたりすることを指導する。

(3) 言葉遊びをしたり、ことわざや慣用句等を使ったりして、我が国の言語文化に親しむとともに、豊かさに気付くことを指導する。

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する生徒を育てる。

I 現状と課題

1 「考えの形成」を重視する言語活動の充実

興味・関心や意欲が高まるよう、「文章を読み、考えを伝え合う」などの言語活動が設定されている。今後は、根拠を明確にしたり、文章の構成や論理の展開、表現の仕方に着目したりして考えることができるよう、当該単元の指導事項を明らかにして指導する必要がある。

2 語彙を豊かにする指導の充実

語句についての理解を深めることができるよう、類義語を調べ、意味を比較するなどの指導が行われている。さらに、語句の量を増やし、適切に表現できるよう、語感を磨き、言葉を吟味して表現させる指導が必要である。

II 方策

1 「考えの形成」を重視する言語活動の充実

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、「考えの形成」に関する学習過程を重視する。指導事項を指導するために効果的な言語活動を学習過程に位置付け、その言語活動を通して資質・能力を育成する。

(1) 「話すこと・聞くこと」

ア 「説明や提案等、伝えたいことを話したり聞いたりする」などの言語活動を設定し、自分の立場や考えが明確になるよう、根拠の適切さや論理の展開等に注意して、話の構成を工夫するように指導する。

イ 「互いの考えを生かしながら議論や討論をする」などの言語活動を設定し、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、考えを広げたり深めたりできるように指導する。

(2) 「書くこと」

ア 「資料から文章や図表等を引用して、説明したり記録したりする」などの言語活動を設定し、文章の構成を考え、根拠を明確にしながらか自分の考えが伝わる書き表し方を工夫するように指導する。

イ 「伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く」などの言語活動を設定し、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように指導する。

(3) 「読むこと」

ア 「文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり、文章にまとめたりする」などの言語活動を設定し、文章を比較して、構成や論理の展開について考え、自分の考えを確かなものにするように指導する。

イ 「学校図書館等を利用し、本や新聞、インターネット等から集めた情報を活用し、考えたことを説明する」などの言語活動を設定し、知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりできるように指導する。

2 語彙を豊かにする指導の充実

(1) 意味を理解して社会生活の中で使いこなせる語句を増やすことができるよう、話や文章の中で使うことを通して、抽象的な概念を表す語句や、理解したり表現したりするために必要な語句等をまとまりとして指導する。

(2) 話や文章を正確に理解し、言葉や文章で適切に表現することができるよう、話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、意見と根拠、具体と抽象等の関係を捉えたりすることを指導する。

(3) 伝統的な言語文化に親しむことができるよう、長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして、表現に取り入れることを指導する。

問題解決的な学習を通して、よりよい社会を考え、公正に判断する児童を育てる。

I 現状と課題

1 社会生活を広い視野から捉える問題解決的な学習の充実

社会的事象への興味・関心を高めるため、体験的な活動や児童の生活経験を生かした学習が進められている。さらに、児童が主体的に問題を追究し、社会生活を広い視野から多角的に考え、問題解決的な学習を充実させていく必要がある。

2 社会への関心を高める活動の設定

社会とのつながりを意識させるため、身近な地域の素材を教材化するなど、地域から学ぶ場の設定が工夫されている。さらに、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとすることができるよう、社会への関心を高める活動を設定する必要がある。

II 方策

1 社会生活を広い視野から捉える問題解決的な学習の充実

- (1) 児童が主体的に問題を追究できるように指導を工夫する。
 - ア 児童の疑問や確かめたいことから学習問題を設定して、予想を立てさせる。
 - イ 学習問題に応じて、聞き取りの方法や記録の仕方等、調べる方法や手順を明確にして学習計画を立てさせる。
 - ウ 地図や統計等の基礎的資料に応じた情報の読み取り方等を繰り返し指導する。
 - エ 話し合い活動では、根拠や理由等を明確にして考えを説明したり、友達の考えの立場や根拠とつなげて議論したりできるように指導する。
 - オ 学習問題に対する考えについて社会的事象と関わるキーワードを用いて記述させたり、自分の言葉で説明させたりするなど、学習したことや考えたことを表現する終末の活動を工夫する。
- (2) 児童が多角的に考察し、考えを深めることができるようにする。
 - ア 読み取った情報等を比較したり関連付けたりして、社会的事象の意味や相互の関連、役割等を考えられるようにする。
 - イ 社会的事象の意味等を多角的に考えられるよう、生産者と消費者、情報の送り手と受け手等、異なった立場や視点から考え、話し合わせる。
 - ウ 自分の考えを見直し深められるよう、発問や学習形態、板書を工夫して友達と自分の考えとの比較や関連付けを促す。

2 社会への関心を高める活動の設定

- (1) 児童が社会に見られる課題を把握して、よりよい社会の在り方等について考える活動を設定する。
 - ア 地域の実態を生かし、地域の人材や施設を積極的に活用したり、具体的な体験を伴う活動を充実させたりするなど、児童が社会と関わる学習となるようにする。
 - イ 社会に見られる課題の解決に向けて、学習したことを基に、自分がどのようなことができるかを考えるなど、自分が社会とどのように関わっていくかを選択したり、判断したりする活動を設定する。
 - ウ よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしているかを捉え、評価する場面を工夫する。

課題解決的な学習を通して、よりよい社会の実現を視野に入れて、公正に判断する生徒を育てる。

I 現状と課題

1 社会的事象を多面的・多角的に考察する課題解決的な学習の充実

社会的事象への興味・関心を高めるため、様々な資料を提示し、それらを根拠にして考えさせる学習が進められている。さらに、生徒が主体的に課題を追究し、解決することができるよう、社会的事象の意味や意義、特色等を多面的・多角的に捉え、思考・判断したことを説明したり、議論したりする学習を充実させていく必要がある。

2 社会との関わりを意識させる活動の設定

よりよい社会の実現を視野に、課題を解決しようとする態度を育むために、現代的な諸課題を踏まえた学習内容を取り上げている。さらに、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を育成することができるよう、専門家や関係諸機関と連携し、作業的で具体的な体験を伴う活動を設定する必要がある。

II 方策

1 社会的事象を多面的・多角的に考察する課題解決的な学習の充実

- (1) 生徒が主体的に課題を追究できるように指導する。
 - ア 生徒が社会的事象の意味や意義、特色等を考えられるよう、学習内容と学習過程の関連を図って指導計画を作成する。
 - イ 単元等、内容や時間のまとまりを見通して、学習課題を設定する。
 - ウ 資料提示の方法、資料の内容や量のバランス等を吟味し、生徒の多様な反応を引き出すように工夫する。また、表やグラフ等から情報を読み取る観点、複数の資料を関連付ける考え方を繰り返し指導する。
 - エ 社会的事象について観点を整理して説明したり、議論を通して変容した自分の考えを表現したりする活動を設定する。
 - オ 生徒が追究の結果をまとめて自分の学びを振り返ったり、新たな問いを見いだしたりする活動を工夫する。
- (2) 生徒が多面的・多角的に考察し、課題を解決できるように指導する。
 - ア 社会的事象の意味や意義、特色等について、地形や国際関係等の様々な側面や、資本家と労働者等の異なった立場から考える視点を示し、多面的・多角的に考察できるようにする。
 - イ ICTを積極的に活用して目的に応じた様々な情報を収集し、適切に処理して発表する活動を設定する。
 - ウ 資料選択の基準や資料の出典、結論を導き出した根拠等を示しながら論理的に説明するように指導する。
 - エ 話し合い活動では、自他の意見を比較・関連付けし、発展させることができるよう、発問や学習形態、板書等を工夫する。

2 社会との関わりを意識させる活動の設定

- (1) 主権者としての社会参画意識の育成を視野に入れた活動を取り入れる。
 - ア 地図帳や新聞等に平素から親しみ、適切に活用したり、調査等の過程と結果を整理し報告書にまとめたりする活動を取り入れる。
 - イ 具体的事例を通して、社会に見られる課題の解決に向け、広い視野から選択・判断したり、専門家等と話し合ったりする活動を設定する。
 - ウ よりよい社会の実現を視野に、自ら追究し続けたいことや、解決、改善を図っていきいたいことについて問いを見いだすなど、主体的に社会に関わろうとしているかを捉え、評価する場面を工夫する。

算 数

数学的活動を通して、筋道を立てて考察し表現しようとする児童を育てる。

I 現状と課題

1 数学的に問題発見・解決する過程を重視した学習の充実

問題解決に興味をもって取り組めるよう、日常生活と結び付けた教材を用いたり、具体物を扱った活動を取り入れたりしている。さらに、自ら問題を見だし、主体的に問題解決に取り組めるよう、見通しをもって数学的活動に取り組み、振り返る数学的に問題発見・解決する過程を重視した学習の充実が必要である。

2 数学のよさを実感できるようにするための指導

既習の内容を活用して問題解決を図ることができるよう、具体的な場면을想起させたり、学習環境を整えたりしている。さらに、学んだことを生活や学習に活用することによって、算数を学習する意義や必要性が分かり、数学のよさを実感を伴って味わうことができるようにするための指導が必要である。

II 方 策

1 数学的に問題発見・解決する過程を重視した学習の充実

- (1) 日常の事象において児童自らが数や量、形等に注目して問題を見いだせるように、観察や操作、教師による場面の演示を取り入れる。
- (2) 重さを比べる場面では「長さやかさを比べたときのように、どちらがどれだけ重いか数で表そう」など、児童が既習の内容を用いてどのように解決するのか見通しをもつことができるよう、学習課題を設定する。
- (3) 一人一人が考えをもつことができるよう、具体物やICT等を用いた活動を取り入れるなど、発達の段階に応じた指導を工夫する。
- (4) 考えを広げたり深めたりできるよう、協働的に学ぶ活動を工夫する。
 - ア 数や式を具体物、図、表、グラフ等と関連させながら、筋道を立てて説明し伝え合う活動を取り入れる。
 - イ 他の考えを読み取って説明したり、自分とは異なる方法を試したりする活動を取り入れる。
 - ウ 「考えの同じところはどこか」「いつでも使える考え方はどれか」など、問いかけや板書等を工夫し、考えの共通点やよさに気付く活動を取り入れる。
 - エ 速さを比べる際等、得られた結果が妥当かどうかを問題場面に戻って考える活動を取り入れる。
- (5) 友達と考えを伝え合うことで複数の解決のアイデアを学び合ったり、よりよい解法に洗練させたりしたことを実感できるように、できたことや新たに分かったこと、更にやってみたいことを書くなど、振り返りを工夫する。

2 数学のよさを実感できるようにするための指導

- (1) 児童がこれまでに何をどのように学んできたのか、次の学年以降のどのような学習につながっていくのかなど、内容の系統性に基つき教材分析を深める。
- (2) 学ぶことの意義や数学の有用性に気付くことができる機会を設定する。
 - ア 新たな学習内容と既習の内容を関連付ける。
 - イ 学んだことを生活や学習の様々な場面で活用できる体験的な活動等を設定する。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする姿や学習したことを生活や学習に活用しようとする姿を捉え、評価する場면을工夫する。

数 学

数学的活動を充実させ、論理的に考察し表現しようとする生徒を育てる。

I 現状と課題

1 数学的に問題発見・解決する過程を重視した学習の充実

見通しをもって活動に取り組めるよう、問題を解決するために既習の何を用いてどのように表したり処理したりするのか構想する場面を設けている。今後は、自ら問題を見だし、主体的に問題解決に取り組めるよう、数学的活動を通して学習を展開することを重視する必要がある。

2 数学のよさを実感できるようにするための指導

数学的な知識及び技能を用いて問題解決を図ることができるよう、問題を解決した後に、解決の方法を整理したり確認したりする場面を設けている。今後は、数学を学習することの意義や、数学の必要性や有用性を実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用できるようにするための指導が必要である。

II 方 策

1 数学的に問題発見・解決する過程を重視した学習の充実

- (1) 日常や数学の事象において、生徒が数量の関係や図形の性質等に目を向けて、問題を見いだすことができるよう、観察や操作、実験等を取り入れる。
- (2) 「平行線の性質を基にして、三角形の内角の和は常に 180° であることを説明しよう」など、生徒が既習の内容を用いてどのように解決するのか見通しをもつことができるよう、学習課題を設定する。
- (3) 一人一人が考えをもつことができるよう、具体物の操作やICTの活用等を通して試行錯誤する場を設定する。
- (4) 生徒が考えを広げたり深めたりできるよう、協働的な学習の場を工夫する。
 - ア 言葉や数、式、図、表、グラフ等の数学的な表現の中から、目的に応じて的確なものを選択したり、いくつかを相互に関連付けたりしながら、思考の過程や根拠等を論理的に表現し伝え合う活動を取り入れる。
 - イ 他の考えを解釈して説明する活動を取り入れる。
 - ウ 「他に分かることはないか」「共通する性質は何か」「条件を変えるとどうなるか」「考察の範囲を広げるとどうなるか」などの新しい知識を得る視点を明確にできるよう、話合いの場において、問いかけや板書等を工夫する。
- (5) 生徒が問題発見・解決の過程で気付いたことや更に調べてみたいこと等を整理して学習の成果を確認できるよう、振り返りの場を設定する。

2 数学のよさを実感できるようにするための指導

- (1) 教材分析を通して、数学的な表現や処理のよさ、数量や図形等に関する基礎的な概念や原理・法則のよさ、数学的な見方・考え方を働かせることのよさ等、実感させたいよさを明確にして、授業を構想する。
- (2) 学ぶことの意義や、数学の必要性や有用性を実感する機会を設定する。
 - ア 問題を解決した後に、導いた結果やその価値を振り返ることができるようにする。
 - イ 学んだことを生活や学習の様々な場面で活用できるようにする。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする姿や問題解決の過程を振り返って改善しようとする姿を捉え、評価する場を工夫する。

見通しをもって観察、実験を行うこと等を通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する児童を育てる。

I 現状と課題

1 科学的に問題解決する過程を重視した学習の充実

児童が興味・関心をもって、自然の事物・現象と関われるよう、事象提示や教材等の工夫がされている。今後、問題解決の活動を児童自らが行えるよう、問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行うなどの科学的に問題解決する過程を重視した学習を充実させる必要がある。

2 意義や有用性を実感させる学習活動の工夫

理科への関心を高めることができるよう、自然の事物・現象からの気付きや、生活の中で起こる事象を取り上げ、生活経験との関連を図った学習活動が工夫されている。さらに、理解を深めることができるよう、学習したことを、身近な自然や日常生活に関連付けたり活用したりする活動を取り入れ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる学習活動の工夫が必要である。

II 方 策

1 科学的に問題解決する過程を重視した学習の充実

- (1) 児童が解決したい問題を見だし、追究することができるよう、具体的な事物・現象と関わらせ、比較させるなど体験的な活動を取り入れる。
- (2) 児童が問題の予想や仮説を発想する際には、自然の事物・現象と既習の内容や生活経験とを関係付けて考えさせるようにする。
- (3) 児童が解決の方法を発想する際には、条件を制御して観察、実験の方法を考えさせる。また、児童が目的や問題意識をもって観察、実験を行えるよう、結果を見通した実験計画を立案させるようにする。
- (4) 児童が観察、実験を行う際には、保護眼鏡を着用して行わせるなど、安全上の配慮事項を具体的に確認させ、事故が起きないように十分留意する。
- (5) 児童が考察する際には、より妥当な考えをつくりだせるようにする。
 - ア 予想や仮説と観察、実験の結果とを照らし合わせて確認させる。
 - イ 複数の観察、実験等から得た結果を基に、多面的に考えさせる。
 - ウ あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、根拠を基にして議論したりする活動を取り入れる。
 - エ 必要に応じてICT等を活用して観察記録や実験結果を表に整理したりグラフに処理したりし、これらを活用しつつ、科学的な言葉や概念を用いて考えたり説明したりする活動を行う。
- (6) 児童が問題を解決する過程では、考察が問題と対応しているか、根拠を基に結論が導かれているかなど、学習したことを振り返るようにする。

2 意義や有用性を実感させる学習活動の工夫

- (1) 学習したことを日常生活との関わりの中で捉え直したり、他教科等で学習した内容と関連付けて考えたりする場を設定する。
- (2) 物を動かすことを目的とする、風やゴムを利用した自動車づくり等、児童が明確な目的を設定し、その目的を達成するための活動を行うなど、学んだことを活用する場を設定する。
- (3) 天気、川、土地等の学習では、自然災害との関連を図りながら学習内容の理解を深められるように工夫する。

見通しをもって観察、実験を行うこと等を通して、自然の事物・現象を科学的に探究する生徒を育てる。

I 現状と課題

1 科学的に探究する過程を重視した学習の充実

生徒が知的好奇心をもって自然の事物・現象と関われるよう、課題提示や教材等が工夫されている。今後は、科学的に探究する過程全体を通して生徒が主体的に学習活動を行い、それぞれの過程において資質・能力が育成されるよう、指導の改善を図ることが必要である。

2 意義や有用性を実感させる学習活動の工夫

日常生活や社会と関連付けた実験や観察を通して、科学的な原理や法則について実感を伴って理解できるようにしている。さらに、様々な原理や法則が科学技術の発展を支える基礎になっていることを認識させ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる学習活動の工夫が必要である。

II 方 策

1 科学的に探究する過程を重視した学習の充実

- (1) 生徒が自然の事物・現象を調べ、事実を確認し、問題を見いだすことにより、意欲的に探究できるようにする。
- (2) 生徒が見通しをもって実験を計画できるように、根拠のある仮説を立て、検証方法を討論するなど、考えを深め合う活動を取り入れる。
- (3) 生徒が観察、実験を安全に行い、結果を適切に処理することができるようにする。
 - ア 観察、実験を行う際は、予備実験を実施するとともに、保護眼鏡を着用させたり換気をしたりするなど事故防止に十分留意する。
 - イ 実験結果を処理する際は、生徒が測定値の誤差を踏まえた上で規則性を見いだすことができるよう、誤差の扱いやグラフ化等、測定値の処理の仕方の基礎を習得させる。
- (4) 考察させる際には、科学的な考えを導き出せるようにする。
 - ア あらかじめ個人で考えた後、意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりする活動を取り入れ、自分の考えをより妥当なものにできるようにする。
 - イ 観察、実験の結果を分析して解釈する際には、データを図、表、グラフ等の多様な形式で表し、考察する時間を十分に確保する。
 - ウ 再現や実験することが困難な事物・現象を扱う際には、資料を調べさせたり、ICTやモデルを積極的に活用したりする。
 - エ 実験結果が考察の根拠として十分か検討させる。根拠として不十分な場合には、実験を再検証する機会を設ける。
- (5) 生徒が課題を解決する過程では、考察が課題と対応し、根拠を基に結論が導かれているかなど、学習したことを振り返る活動を取り入れる。
- (6) 探究の過程全体を通してのみならず、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、それぞれの学習過程において計画的に取り入れる。

2 意義や有用性を実感させる学習活動の工夫

- (1) 理科で学習する規則性や原理を日常生活との関わりの中で捉え直したり、他教科等で学習した内容と関連付けて考えたりする場を設定する。
- (2) 簡単なカメラやモーター等、各内容の特質に応じたものづくりを行い、科学的な原理や法則について実感を伴って理解できるようにする。
- (3) 大地、気象、自然と人間等の学習では、自然災害との関連を図りながら学習内容の理解を深められるようにする。

具体的な活動や体験を通して、自立し生活を豊かにしていく児童を育てる。

I 現状と課題

1 気付きの質を高める学習活動の充実

具体的な活動や体験を通して気付いたことを共有するために、話し合いが大切にされている。さらに、新たな気付きが生まれたり様々な気付きが関連付けられたりするよう、気付きの質を高める学習活動を充実する必要がある。

2 幼児期の教育からの円滑な接続

小学校の生活に慣れ、友達との関係を築いていけるよう、幼児期に親しんできた遊びと関連付けた学習を行っている。さらに、安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるよう、幼児期の教育からの円滑な接続を図る必要がある。

II 方策

1 気付きの質を高める学習活動の充実

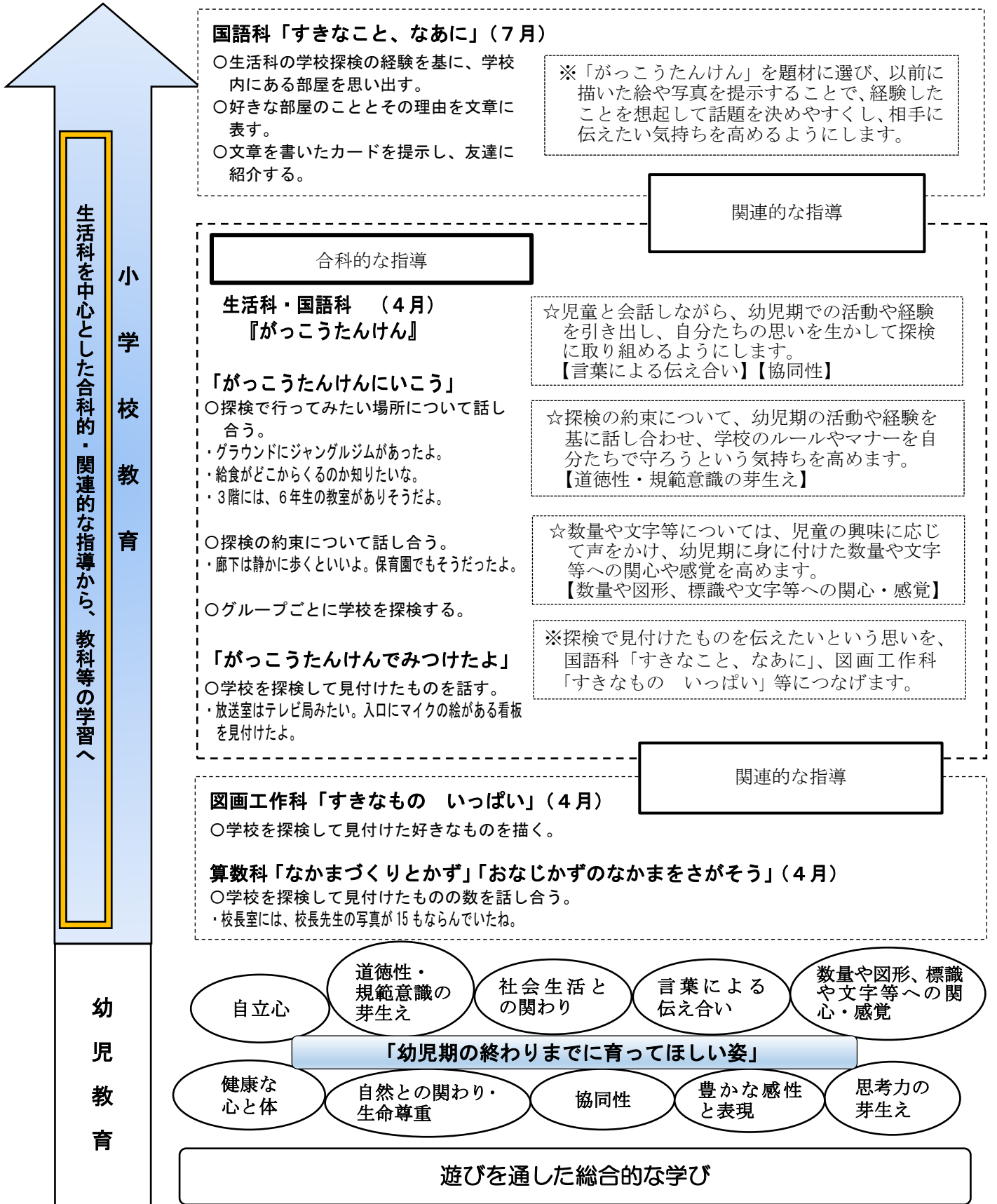
- (1) 自分の思いや願いを生かし、主体的に活動することができるよう、学習活動を工夫する。
 - ア 学習対象との出会いの場では、児童が好奇心や探究心、対象への興味や親しみ、憧れ等からくる「やってみたい」「知りたい」「できるようになりたい」といった自分の強い思いや願いをもつことができるようにする。
 - イ 実際に地域の人と話をしたり、公園や公民館等地域の施設を利用したりするなど、身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動を重視する。
 - ウ 自分との関わりの中で対象にじっくりと関わったり、繰り返し関わったりできるようにする。
- (2) 活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり新たな気付きを得たりできるように、学習活動の充実を図る。
 - ア 見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を意図的・計画的・組織的に設定する。
 - イ 活動や体験したことを言葉、絵、動作、劇化等の多様な方法により表現し、考えることができるようにする。
- (3) 一人一人の気付きを全員で共有し、高めていけるよう、気付きや発見を友達と伝え合い交流する場を工夫する。
- (4) 自分のよさや可能性についての気付きを深め、生活することへの意欲や自信を高めていけるよう、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視する。

2 幼児期の教育からの円滑な接続

- (1) 幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等の学習に円滑に移行できるよう、学校全体で取り組むスタートカリキュラムに基づいて、生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行ったり、弾力的な時間割を設定したりする。
- (2) スタートカリキュラムの実施に当たっては、児童が安心して学ぶことができるよう、学習環境を整える。その際、一人一人の発達や実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれること等の視点に配慮する。

◆ 小学1年生の生活科を中心とした活動例

(☆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫 ※指導上の留意点)



(幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して「わくわく・きときと」接続ガイド 富山県教育委員会 令和5年度 を参考に作成)

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わろうとする児童を育てる。

I 現状と課題

1 〔共通事項〕を要とした表現及び鑑賞の指導

興味・関心をもって取り組むことができるよう、題材の指導計画が作成されている。さらに、資質・能力の育成が偏りなく実現できるよう、年間を見通して各領域や分野の関連を図り、〔共通事項〕を要とした表現及び鑑賞の指導を行う必要がある。

2 共有したり共感したりする音楽活動の充実

曲のよさを味わうことができるよう、音色や速度等について、気付いたことや感じ取ったこと等を交流する学習が行われている。さらに、音楽表現を生み出したり、音楽のよさや価値等を考えたりすることができるよう、共有したり共感したりする音楽活動の充実を図る必要がある。

II 方策

1 〔共通事項〕を要とした表現及び鑑賞の指導

(1) 各領域や分野の事項と〔共通事項〕で示しているア及びイとの関連を図り、年間を通じてこれらを継続的に取り扱うように工夫する。

(2) 表現領域では、音楽をどのように表すかについて思いや意図をもち、実際に演奏したり音楽をつくったりできるようにする。

ア 歌唱、器楽分野では、楽譜を見てリズムや旋律、声部の重なり方・声部の役割、曲全体の構成等の特徴を確認する、思いや意図を言葉で伝え合うことと表現方法を様々に試すこととを繰り返すなどして、曲の特徴にふさわしい表現をすることができるようにする。

イ 音楽づくり分野では、いろいろな表現の仕方を試したり、ICTを活用したりしながら、表したい音や音楽をつくることができるようにする。

・即興的に表現する活動を通して、音楽づくりの発想を得ることができるようにする。

・反復や変化等を用い、音を音楽へと構成していく活動を通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもつことができるようにする。

(3) 鑑賞領域では、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、曲や演奏のよさ等を見だし、曲全体を味わって聴くことができるようにする。

ア 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える場を設定する。

イ 聴き取ったリズムや速度等を言葉や体の動きで表すなどの学習を取り入れる。

2 共有したり共感したりする音楽活動の充実

(1) 自分の感じ方や考え方を深めることができるよう、音楽の構造について共有したり、気付いたことや感じ取ったことに共感したりする指導を工夫する。

ア 表現領域では、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりするなどの活動を取り入れ、音楽表現を高めていく楽しさを味わうことができるようにする。

イ 鑑賞領域では、音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったこと等の様々な意見を共有した後、視点をもって再度音楽を聴くことにより、音楽をより味わって聴くことができるようにする。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わろうとする生徒を育てる。

I 現状と課題

1 〔共通事項〕を要とした表現及び鑑賞の指導

音楽のよさや楽しさを感じることができるよう、音楽を形づくっている要素を意識した学習が行われている。さらに、資質・能力が偏りなく育成されるよう、指導事項を明確にして題材の指導計画を作成し、〔共通事項〕を表現及び鑑賞の内容と併せて十分に指導する必要がある。

2 共有したり共感したりする音楽活動の充実

曲想を感じ取ることができるよう、知覚したことと感受したことを話し合う学習が行われている。今後は、音楽表現を創意工夫したり、音楽をより深く味わって聴いたりすることができるよう、生徒が自らの考えを他者と交流し、協働的に学習に取り組むことができる活動の充実を図る必要がある。

II 方策

1 〔共通事項〕を要とした表現及び鑑賞の指導

(1) 〔共通事項〕を表現領域、鑑賞領域の各活動と併せて指導できる年間指導計画や、指導事項を明確にした題材の指導計画を作成する。その際、〔共通事項〕を要として、各領域や分野相互の関連を図る。

(2) 表現領域では、音楽をどのように表現するかについて思いや意図をもち、ICTを活用しながら実際に演奏したり音楽を創作したりできるようにする。

ア 歌唱、器楽分野では、曲にふさわしい表現ができるよう、曲想と音楽の構造等との関わりを理解する、創意工夫を生かして全体の響きや各声部の音等を聴きながら合わせて表現するなどの活動を取り入れる。

イ 創作分野では、まとまりのある音楽をつくることができるよう、生徒が表したいイメージと関わらせながら構成等の特徴を理解する、反復・変化・対照等を工夫して旋律をつくるなどの活動を取り入れる。

(3) 鑑賞領域では、音楽について自分なりに考え、そのよさや美しさを味わうことができるようにする。

ア 気に入ったところや他者に紹介したいところ等、音楽に対する自分の価値意識について、曲想や音楽の構造との関わり等を根拠に挙げて、考える場を設定する。

イ リズムや速度、形式等の特徴と、背景となる文化や歴史、他の芸術との関連を考える、音楽表現の共通性や固有性について言葉で説明したり批評したりするなどの活動を取り入れる。

2 共有したり共感したりする音楽活動の充実

(1) 生徒が言葉で表したことと音や音楽との関わりを捉え、自分の感じ方や考え方を深めることができるよう、互いの気づきを共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動を充実させる。

ア 表現領域では、生徒が表したい思いや意図を音や音楽、言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりするなどの活動を取り入れ、他者と創意工夫し、表現する喜びを味わうことができるようにする。

イ 鑑賞領域では、生徒が音楽に対する評価等を伝え合い、共感した後、聴き返して確かめるなどの活動を取り入れ、音楽をより深く味わうことができるようにする。

図画工作

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色等と豊かに関わる児童を育てる。

I 現状と課題

1 〔共通事項〕を踏まえた表現及び鑑賞の指導の工夫

材料や用具を使い工夫して製作したり、自他の作品や活動のよさ等を話し合ったりする活動が設定されている。さらに、形や色等の造形的な視点について理解したり、自分のイメージをもったりすることができるよう、〔共通事項〕を踏まえた表現及び鑑賞の指導の工夫が必要である。

2 作品等をつくったり見たりすることの喜びを味わわせる指導の工夫

発想や構想をしたり、技能を働かせたりすることができるよう、思いを大切にしたい指導が行われている。さらに、感性や想像力を働かせ、自分のよさや可能性を見いだすことができるよう、作品等をつくったり見たりすることの喜びや楽しさを味わわせる指導を工夫する必要がある。

II 方 策

1 〔共通事項〕を踏まえた表現及び鑑賞の指導の工夫

- (1) 自分の感覚や行為を通して形や色等を理解したり、自分のイメージをもったりすることができるよう、様々な形や色の材料に触れる活動や、思ったことを簡単な絵や図にかきとめる活動等を想定した指導計画を作成する。
- (2) 形や色等に着目して活動するなど、造形的な視点を活用できる知識として習得できるよう、形や色、触った感じ、動き、奥行き、バランス等、各学年で中心的に扱う事項を大切に、その後の学年でも繰り返し取り上げる。
- (3) 自分のイメージを具体的にもてるよう、材料や用具、作品等からイメージしたことについて、形や色等を根拠にして話す活動を取り入れたり、児童の発言や作品で自分を表現している姿等を捉えて紹介したりする。

2 作品等をつくったり見たりすることの喜びを味わわせる指導の工夫

- (1) 「造形遊びをする」と「絵や立体、工作に表す」の特性を踏まえた題材を構想する。
ア 「造形遊びをする」では、「つくり、つくりかえ、つくる」学びの過程が実感を伴った経験となるよう、材料の質や量、場所等を吟味する。
イ 「絵や立体、工作で表す」では、表したいことを見付けて、どのように表すかについて考え、工夫して表すことができるよう、児童の興味を題材に生かしたり、材料や用具を使う楽しさを味わえるようにしたりする。
- (2) 作品等に対する自分の見方や感じ方を深められるよう、材料や作品等を見たり触ったりすること自体を楽しめるようにしたり、友達の作品や活動等を自然に見ることができる学習環境を整えたりする。
- (3) 自分の成長やよさ、可能性に気づき、次の学習につなげられるよう、作品の変容や活動の様子を記録した画像やワークシート等を活用し、発想や構想、技能、〔共通事項〕等の視点で振り返る場を工夫する。

美術

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる生徒を育てる。

I 現状と課題

1 〔共通事項〕を位置付けた表現及び鑑賞の指導

形や色彩等に着目しながら制作したり、作品等のよさや美しさを感じ取ったりする活動が設定されている。さらに、生徒が造形的な視点を豊かにできるよう、各領域での指導事項を明確にして指導する必要がある。

2 実感的な理解を深める指導

生徒が発想や構想をしたり、意図に応じて表現方法を工夫したりできるよう、生徒の実態や学習経験等を踏まえた題材や学習活動が設定されている。今後は、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わるができるよう、生徒が生活や社会の中の形、色彩等の造形の要素に着目し、自分との関わりの中で美術や美術文化を捉えていく指導の充実が必要である。

II 方策

1 〔共通事項〕を位置付けた表現及び鑑賞の指導

- (1) 生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもつことができるよう、〔共通事項〕を題材のどの場面でどのように指導するかを指導計画に位置付ける。
- (2) 実際に材料を手にして感触を十分に確かめさせたり、自分が感じた全体のイメージや作風等の根拠について話し合わせたりするなど、〔共通事項〕に示す事項を実感を伴いながら理解し、生きて働く知識として身に付けることができるようにする。
- (3) 生徒が対象を豊かに捉えるための多様な視点をもてるよう、色彩の色味や明るさ、材料の質感、余白等の造形に関する言葉を、意図的に用いて説明させたり話し合わせたりする。

2 実感的な理解を深める指導

- (1) 生徒が様々な場面で感性や想像力を発揮することができるよう、題材が、自己の内面、他者、社会、文化等を捉えたり、生徒の個性やよさを伸ばしたりできるかを吟味する。
- (2) 生徒が主題を心の中に思い描き、豊かな発想や構想ができるよう、題材名や題材との出合いの場を工夫する。
- (3) 鑑賞したことが発想し構想を練るときに生かされ、また発想や構想をしたことが鑑賞において見方や感じ方に関する学習に生かされるよう、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働き等の学習の中心になる考えを明確にする。
- (4) 生徒が美術文化への理解を深めることができるよう、我が国のよき美術文化を伝える技法や材料等を扱った表現活動等に取り組みさせる。
- (5) 美術が生活や社会において重要な役割を果たしていることを生徒が実感できるよう、鑑賞活動では、指導事項を組み合わせる題材を設定し、美術作品だけでなく自然や身の回りの環境等、幅広く対象を捉えさせ、学習の充実を図る。
- (6) 生徒が造形活動を通して自分の見方や感じ方を深めることができるよう、他者と交流し、認め合い尊重し合う場等を設ける。
- (7) 生徒が意図に応じた工夫や、試行錯誤した自己決定の過程を振り返ることにより、新たな発想や技能の高まり等、学習の成果を実感できるようにする。

家庭

衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する児童を育てる。

I 現状と課題

1 家庭生活の実態を捉えた題材の検討と「指導と評価の計画」の作成

2 学年間で指導事項の全てを取り扱うために、指導計画に沿って授業が実施されている。今後は、課題を解決する力（課題を設定する力、様々な解決方法を考える力、実践を評価・改善する力、考えたことを分かりやすく表現する力）を養う学習を展開できるよう、児童の家庭生活の実態を捉えて題材を検討したり「指導と評価の計画」を作成したりする必要がある。

2 実生活と関連を図った問題解決的な学習の工夫

題材の導入では、日常生活から問題を見いだせるよう、身近な生活を見つめる活動が取り入れられている。今後は、学習過程において、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら課題の解決を図っていけるよう、実生活と関連を図った問題解決的な学習を工夫する必要がある。

II 方策

1 家庭生活の実態を捉えた題材の検討と「指導と評価の計画」の作成

- (1) 2 学年間を見通した計画的・継続的な指導が行われるよう、児童の家庭生活の実態を的確に捉えて題材を検討し、年間指導計画を作成する。
 - ア 育成する資質・能力を明確にして、AからCの内容項目や指導事項の相互の関連を図って組み合わせたり、学習過程との関連を図ったりして題材を構成する。
 - イ 中学校の内容との系統性に配慮しながら、学校、地域における行事等との関連を図り、より身近な題材を設定する。
 - ウ 学年の発展性、各教科等の指導計画や学校行事、季節等との関連を考慮して、適切に題材を配列する。
- (2) 題材で育成すべき資質・能力に即して、児童が課題を解決する力を発揮できる評価場面や評価方法等を計画した「指導と評価の計画」を作成する。
- (3) A(4)は、2 学年間で一つ又は二つの課題を設定し、確実に年間指導計画に位置付ける。その際、A(2)又は(3)を基礎としてB及びCの内容との関連を図り、実践的な活動を家庭や地域等で行う。

2 実生活と関連を図った問題解決的な学習の工夫

- (1) 児童が、個々に課題を設定し「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら解決できるよう、問題解決的な学習過程の各過程における場の設定等を工夫する。
 - ア 生活の中から問題を見だし解決すべき課題を設定する過程では、共通体験の場や家庭生活を見直す場等を設定する。
 - イ 解決方法の検討と計画をする過程では、実践的・体験的な活動を取り入れて知識及び技能の習得を確かなものにし、他者の思いを聞いたり自分の考えを伝えたりする場等を設定する。
 - ウ 課題解決に向けた実践活動を行う過程では、児童が家庭科での学習で身に付けた力を家庭生活に生かすことができるよう、家庭や地域との連携を図る。
 - エ 実践活動の評価・改善を行う過程では、実践した結果を振り返り、考えたことを話し合い、他者からの意見を踏まえて改善方法を考える場等を設定する。
- (2) 情報を共有して実践の改善に生かすために家庭や地域での実践の様子を撮影するなど、問題解決的な学習過程の中で効果的にICTを活用する。

家庭科の内容項目

- A 家族・家庭生活
- B 衣食住の生活
- C 消費生活・環境

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
 - (2) 家庭生活と仕事
 - (3) 家族や地域の人々との関わり
 - (4) 家族・家庭生活についての課題と実践
 - (1) 食事の役割
 - (2) 調理の基礎
 - (3) 栄養を考えた食事
 - (4) 衣服の着用と手入れ
 - (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
 - (6) 快適な住まい方
 - (1) 物や金銭の使い方と買物
 - (2) 環境に配慮した生活
- 〔小学校学習指導要領解説 家庭編〕 文部科学省 平成 29 年度

技術・家庭

生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、将来にわたり、生活を工夫し創造しようとする生徒を育てる。

I 現状と課題

1 生活や社会の実態等を考慮した題材の設定

3学年間を見通した全体的な指導計画が作成され、授業が実施されている。今後は、課題を主体的に捉えられるよう、学校や地域の実態、生徒の興味・関心や学習経験を踏まえた題材を設定する必要がある。

2 生活や社会につながる問題解決的な学習の工夫

題材の導入で問題を見いだせるよう、生活や社会を見つめる活動が取り入れられている。今後は、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができるよう、問題解決的な学習を工夫する必要がある。

II 方策

1 生活や社会の実態等を考慮した題材の設定

(1) 学校や地域の実態、生徒の興味・関心や学習経験を踏まえた題材を設定し、実践的・体験的な活動を重視して指導計画を作成する。その際、学習活動を基礎的なものから応用的なものへと発展させ、学習の効果を高める。

ア 技術分野では、AからDの指導の順序を考えて題材を設定する。また、生徒が見だし解決する問題の難易度を3年間で徐々に上げていくように指導計画を作成する。

イ 家庭分野では、生徒が家庭生活を総合的に捉えることができるよう、AからCの内容項目や指導事項相互の関連を図って題材を構成する。

(2) 小学校の学習を踏まえるとともに、高等学校の学習を見据え、系統的・発展的に指導する。

ア 技術分野のDの学習では、小学校でのプログラミング教育の成果を生かし、取り組む課題を発展させるように工夫する。

イ 家庭分野のCの学習では、成年年齢に達する高等学校での学習につなげることを意識し、消費者被害への対応等について指導する。

2 生活や社会につながる問題解決的な学習の工夫

(1) 生徒が段階を追って学習を深めることができるよう、課題の設定、計画、実践、評価・改善等の学習過程を適切に組み立てる。

ア 技術分野では、各内容において、課題の設定や設計・計画の時間を十分に設定する。

イ 家庭分野では、調理や製作等の実習、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践したことを振り返り、考察したことを発表し合うなど、改善策を多角的に検討できるようにする。

(2) 家庭や地域社会、企業等と効果的に連携や協働を図る。

ア 技術分野では、技術の発達を支える技術革新に触れることができるよう、試験研究機関や民間企業、高等学校等との連携に配慮する。

イ 家庭分野の指導事項「生活の課題と実践」では、学習したことを衣食住等の生活に生かし、継続的に実践を行う。

技術・家庭科の内容

技術分野 A材料と加工の技術
家庭分野 A家族・家庭生活

B生物育成の技術
B衣食住の生活

Cエネルギー変換の技術
C消費生活・環境

D情報の技術

(「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」 文部科学省 平成29年度)

体 育

体育や保健の課題を見付け、解決に向けた学習過程を通して、心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現を目指そうとする児童を育てる。

I 現状と課題

1 運動の楽しさや喜びを味わい、運動の課題を解決する学習の工夫

運動の課題を見付けることができるよう、学習カードや掲示物が工夫されたり、ICTが活用されたりしている。さらに、体力の向上を図るための実践力を身に付けることができるよう、運動の楽しさや喜びを味わい、運動の課題を解決する学習を工夫する必要がある。

2 健康的な生活習慣の形成に結び付く学習の充実

保健の内容に関心をもったり、身近な生活における課題を捉えたりすることができるよう、導入や資料の提示の仕方が工夫されている。さらに、自ら考えたり、判断したりしながら健康に関する課題を解決することができるよう、健康的な生活習慣の形成に結び付く学習を充実させる必要がある。

II 方 策

1 運動の楽しさや喜びを味わい、運動の課題を解決する学習の工夫

- (1) 二つの学年を一つの単位として示されている指導内容や種目を、教材の特性や児童の実態を踏まえて振り分けるなど、弾力的な扱いを工夫する。また、学校段階等間の接続や6年間（保健は4年間）を見通した「指導と評価の計画」を作成し、活用する。
- (2) 運動に積極的に取り組み、互いの動きや考えのよさを認め合おうとする姿や、仲間と助け合おうとする姿を見取るなど、評価場面を工夫する。
- (3) 発達の段階、能力や適性、興味や関心等に応じて、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決できるような指導を行う。
 - ア 練習方法の選択、ルール工夫等、思考力、判断力を育てる場を設定することで、技能の向上に結び付くようにする。
 - イ ICT等を活用し、動きのモデルや技のできばえ、記録の伸び等を視覚的に捉え、一人一人が課題の解決に向けた学習の見通しをもって運動に取り組むことができるようにする。
 - ウ 運動の質や技能、意欲が高まるよう、運動中に助言し合ったり、励まし合ったりすることができる学習環境づくりに努める。
 - エ 本時の学習の成果が次時につながるよう、ノートやカード、資料を基に動きのポイントや友達のよい動き等を確認するなど、振り返りの場を終末に設定する。
- (4) 児童が活動の場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするなど、安全に気を付けて運動することができるようにする。
- (5) 学習したことを休み時間等にも楽しむことができる環境を整え、体力の向上につなげる。
- (6) 特別な配慮を必要とする児童への手立て、共生の視点を踏まえた指導により、運動の楽しさや喜びを味わわせ、「する・みる・支える・知る」等、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方の学習を充実させる。

2 健康的な生活習慣の形成に結び付く学習の充実

- (1) 学習したことを自己の生活と比べたり、関連付けたりするなど、適切な解決方法を考える学習活動を取り入れる。
 - ア 健康な生活、けがの防止等についての基礎的・基本的な内容を実践を通して理解することができるようにする。
 - イ 課題を解決するために、考えたり選んだりした方法や理由を学習カード等へ書いたり発表したりして伝え合う場を設ける。
 - ウ 体験や事例を用いた話し合い、ブレインストーミング、実習や実験等を行ったり、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員等の協力を得たりするなど、多様な指導方法を取り入れる。
 - エ 運動と健康との関連について考えをもてるように指導する。

保健体育

体育や保健の課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現を目指そうとする生徒を育てる。

I 現状と課題

1 運動の楽しさや喜びを味わい、運動の課題を合理的に解決する学習の工夫

運動の課題を発見することができるよう、学習カードや掲示物が工夫されたり、ICTが活用されたりしている。さらに、運動の楽しさや喜びを味わい、発見した課題を解決することができるよう、運動に関わる科学的な知識や技能を活用して、思考し判断する学習を工夫する必要がある。

2 健康的な生活習慣の形成に結び付く学習の充実

自他の健康に関心を持ち、健康に関する課題を解決することができるよう、日常生活の事例が取り上げられたり、少人数で話し合わせたりしている。さらに、自ら考えたり、判断したりしながら健康に関する課題を解決することができるよう、多様な指導方法を工夫し、健康的な生活習慣の形成に結び付く学習を充実させる必要がある。

II 方 策

1 運動の楽しさや喜びを味わい、運動の課題を合理的に解決する学習の工夫

- (1) 学校段階の接続や発達の段階のまとまりを考慮し、3学年間を見通した「指導と評価の計画」を作成し、活用する。
- (2) 一人一人の違いを認めようとする、互いに協力するなどの意欲を育むとともに、自己の最善を尽くして積極的に運動に取り組む態度を養うため、体育理論等で学習する知識との関連を重視した運動の学習を工夫する。
- (3) 基本的な運動の技能や知識を確実に身に付けるとともに、それらを活用して、自他の運動に関する課題を合理的に解決できるような指導を行う。
 - ア 心と体を一体と捉えて保健分野の内容と関連付けたり、十分な運動量を確保して技能と知識を身に付けさせたりする学習活動を設定する。
 - イ 生徒が運動の特性や魅力に触れ、課題に応じた取り組み方を工夫できるよう、ルールや活動の場を選択させたり、図や資料、ICT等を活用して改善のポイントを客観的に捉えさせたりする。
 - ウ 学習課題や資料の提示を工夫し、生徒同士の関わり合いを大切にしながら課題解決ができる学習過程を組み立てる。
 - エ 本時の学習の成果が次時につながるよう、ノートやカード等を基に自己評価や相互評価を行う時間を終末に設定する。
- (4) 生徒が健康・安全に関する知識を運動場面に当てはめ、活動の場の安全を確かめたり、安全な行動を選択したりすることができるようにする。
- (5) 体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて運動に取り組みせ、体力の向上に結び付くようにする。
- (6) 特別な配慮を必要とする生徒への手立て、共生の視点に基づく各領域における指導、男女共習の推進により、運動やスポーツの多様な楽しみ方の学習を充実させる。

2 健康的な生活習慣の形成に結び付く学習の充実

- (1) 小学校の内容を踏まえ、体育分野の内容との関連を図りながら自他の健康に関する課題を解決する学習を取り入れる。
 - ア 健康な生活や心の健康等について科学的に理解できるようにするとともに、予防・対処の仕方等の基本的な技能を身に付けさせる。
 - イ 課題の解決方法とそれを選択した理由を他者と話し合ったり、ノート等に記述したりして、考えを整理することができるようにする。
 - ウ 応急手当等の実習や実験、課題学習等を取り入れたり、保健・医療機関や養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員等との連携・協力を推進したりするなど、多様な指導方法を取り入れる。
 - エ 運動による心と体への効果や健康と運動の密接な関連を、「体ほぐしの運動」等、具体的な活動を通して体得できるように指導する。

外国語活動

外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする児童を育てる。

I 現状と課題

1 児童の興味・関心を高める言語活動の設定

外国語の音声やリズム等に慣れ親しむことができるよう、活動が設定されている。今後は、児童が進んでコミュニケーションを図ろうとするよう、興味・関心を高め、伝え合う必然性のある体験的な言語活動を設定することが大切である。

2 外国語教育の導入段階であることを踏まえた指導

動作や表情を交えながら、外国語でやり取りする楽しさを味わえるような授業が行われている。今後は、外国語教育の導入段階であることを踏まえ、外国語を通して相手と分かり合えるよさを感じることができるよう、段階的に外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動を行い、話す活動へつなげる必要がある。

II 方策

1 児童の興味・関心を高める言語活動の設定

- (1) 聞いたり話したりする必然性のある場面を設定し、児童がコミュニケーションを図る楽しさを体験できるように、言語活動を工夫する。
 - ア 「聞くこと」に関しては、ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ったり、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味を理解したりする活動を行う。
 - イ 「話すこと [やり取り]」に関しては、一日の生活についてやり取りするなど、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、質問したり答えたりする活動を行う。
 - ウ 「話すこと [発表]」に関しては、人前で実物や写真等を見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の気持ちや考え等を話すなど、友達との関わりを大切に活動を取り入れる。
- (2) 児童が進んでコミュニケーションを図ろうとするよう、他教科等で学習した内容を活用したり、学校行事等と関連させたりするなど、興味・関心のある題材を扱う。

2 外国語教育の導入段階であることを踏まえた指導

- (1) 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるようにするとともに、日本語とは違った外国語の音声やリズム、簡単な語句や基本的な表現等に十分慣れ親しむような活動を設定する。
- (2) 単元の終末で目指す児童の具体的な姿を明確にし、児童の実態に応じて細かな段階を踏まえた指導に努める。
 - ア 児童が目的意識をもって活動に取り組めるよう、単元を見通した課題を設定する。
 - イ 音声を十分に聞いた上で、繰り返し言うなどの活動を通して表現に慣れ親しませ、話すことへの意欲を高めながら、段階的に話す活動へつなげる。
 - ウ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、尋ねたり答えたりすることができた喜びを味わえるようにする。

外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする児童を育てる。

I 現状と課題

1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の設定

単元を見通し、終末の言語活動につながるよう、授業が実施されている。今後は、毎回の授業においても自分の考えや気持ち等を伝えることができるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する必要がある。

2 外国語活動を踏まえた指導

「聞くこと」「話すこと」において、児童が意欲的に取り組むことのできる活動が設定されている。今後は、「読むこと」「書くこと」においても、音声や基本的な表現に慣れ親しんだことを生かしてコミュニケーションを図ることができるよう、外国語活動を踏まえた指導を行う必要がある。

II 方策

1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の設定

- (1) 英語の音声や語彙、表現等の生きて働く知識を、実際に英語を用いた言語活動を通して体験的に身に付けることができるようにする。
 - ア 音声については、デジタル教科書等を活用するなどして、繰り返し触れさせたりリズムを大切にしながら発音させたりすることを通して、日本語と英語の特徴や違いに気付かせる。
 - イ 語彙や表現等については、繰り返し聞いたり話したりすることを通して、自分の伝えたいことが表現できるよう、英語の語順に気付かせたり、語と語の組合せに意識を向けさせたりする。
- (2) 単元を見通した具体的な課題を設定し、自分の考えや気持ち等を伝え合う言語活動を繰り返し取り入れる。
 - ア 日常生活の中での出来事や習慣的なことについて、絵や写真等と結び付けながら短い会話や説明等の内容を捉えられるようにする。
 - イ 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動を取り入れる。

2 外国語活動を踏まえた指導

- (1) 外国語活動での学びを踏まえた活動内容や指導方法を工夫する。
 - ア 外国語活動と円滑に接続できるよう、児童や学校の実態に応じ、活動や題材、場面設定等を配列する。
 - イ 「聞くこと」「話すこと」に関しては、外国語活動で扱う簡単な語句や基本的な表現等の学習内容を繰り返し使う言語活動を設定し、定着を図るようになる。
 - ウ 「読むこと」に関しては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、大文字・小文字を識別したり、その読み方を適切に発音したりするなどの活動を取り入れる。
 - エ 「書くこと」に関しては、相手に伝えるなどの目的をもって、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、語順を意識しながら書き写したり、例文を参考に書いたりすることができるように活動を工夫する。

外国語による言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図ろうとする生徒を育てる。

I 現状と課題

1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の充実

言語活動を授業の中心に位置付け、英語を使用する場面を増やすよう、学習形態を工夫した授業が実施されている。今後は、生徒が授業での学びを実際のコミュニケーションで活用できるよう、言語活動の目的や言語の使用場面等を明確にした具体的な学習課題を設定し、指導を工夫する必要がある。

2 小学校や高等学校との接続に留意した指導

「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から学習到達目標が設定されている。今後は、小・中・高等学校の学びの連続性を意識し、五つの領域にわたってコミュニケーションを図る資質・能力をバランスよく育成することができるよう、小学校や高等学校との接続に留意した指導を工夫する必要がある。

II 方 策

1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の充実

- (1) 言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、生徒が実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けることができるようにする。
 - ア 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」及び「書くこと」の技能を総合的に育成する。
 - イ 実物やICT等を活用した効果的な言語活動を工夫し、音声や語彙、表現、文法等の知識を、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し活用させ、定着を図る。
- (2) 聞いたり読んだりした内容を的確に理解し、事実や自分の考え、気持ち等を表現し伝え合う活動を充実する。
 - ア 日常的な話題や社会的な話題について必要な情報や考え等を聞き取ったり読み取ったりする活動を設定し、生徒が内容を的確に理解できるようにする。
 - イ 聞いたり読んだりして把握した内容を活用し、自分の考えや気持ち、その理由等を話したり書いたりする統合的な言語活動を設定する。
 - ウ 即興で話したり書いたりする活動を第1学年から設定し、継続的に取り組ませることで、生徒がメモ書き等の補助を利用しながら、互いに事実や自分の考え、気持ち等を伝え合うことができるようにする。

2 小学校や高等学校との接続に留意した指導

- (1) 高等学校卒業時において求められる資質・能力を明確にした上で、各学校における生徒の発達の段階と実情を踏まえ、学年ごとの学習到達目標を適切に設定する。また、それを生徒や保護者等と共有するとともに生徒の実態に応じて見直す。
- (2) 小学校で扱った簡単な語句や基本的な表現等については、互いの考えや気持ち等を伝え合う言語活動を通して繰り返し活用し、定着を図る。
- (3) 授業を実際のコミュニケーションの場面とするために、英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる。

- 1 単元名 My Wish for Peace
- 2 単元について
 - ・教科書本文のメッセージと、修学旅行での体験や総合的な学習の時間での平和学習を関連付け、戦争と平和について互いの考えや気持ちを伝え合うことをねらいとする。
 - ・本単元のゴールの言語活動を「平和問題に関心をもつALTに、平和学習を通して学んだことを伝えよう」とする。本時では、その活動に向けて、伝える内容を整理するための活動を設定する。本文や平和学習を通して心に残ったことを伝え合う活動を通して、思考力、判断力、表現力等の育成を図りたい。
- 3 全体計画（全8時間）
 - 第1次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間
 - ・本文の概要や要点を捉える
 - ・現在分詞や過去分詞の後置修飾の特徴やきまりを理解する
 - 第2次 平和学習を通して学んだことを伝える・・・・・・・・2時間（本時1／2）
- 4 本時の学習（7／8時）
 - (1) 目標 平和学習を通して心に残ったことを伝え合うことができる。
 - (2) 展開

学習活動（配時）	・指導上の留意点 ◆評価<方法> ※「努力を要する」状況と判断される生徒への手立て
1 本文の音読をし、既習事項の確認をする。（5） 2 Small Talk をする。（10） 広島で訪れた場所や見たものについて問答する。 3 本時の学習課題を確認する。（1）	・学習者用デジタル教科書を使って個別に音読練習をするよう指示する。（JTE） ・ ①本時の言語活動のやり取りが円滑になるよう、広島での活動に関する質問をする。（ALT） ・本時の言語活動で必要だと思われる語句や表現を全体で共有し、板書しておく。（JTE） ・ ①本時の活動の目的を明確にするために、単元のゴールの活動を再確認する。（JTE）
平和学習を通して心に残ったことを伝え合おう	
4 平和学習を通して心に残ったことを資料や写真を見せながら伝え合う。（27） ①Small Talk の問答に、質問や感想を付け加えながらやり取りする。 ②相手を替え、やり取りを繰り返す。 5 本時のまとめとして、最初にやり取りをした相手と再度伝え合う。（2）	・心に残っている写真や資料を、事前に学習者用端末に保存しておくよう伝えておく。（JTE） ※話す内容に困っている生徒には、前時までの授業でマークしておいた教科書本文中の印象に残った英文を引用するよう助言する。（JTE） ・ ②各自のやり取りに生かせるよう、活動の途中で発話内容や言語材料について全体で確認する。（JTE、ALT） ・課題に即した発話内容になっているか、生徒のやり取りを聞き、確認する。（JTE、ALT）
S1: What did you do in Hiroshima? S2: I visited Hiroshima Peace Memorial Museum. S1: What did you see there? S2: I saw a lot of terrible things. S1: Tell me more. S2: OK. Look. This is a picture of the buildings burned by the atomic bomb. I was so scared to see them. :	
6 本時の学習を振り返る。（3） 振り返りカードに記入する。 心に残った写真について説明できるようになった。ALTにも分かってもらえるよう伝えたい。	◆思考・判断・表現 平和学習を通して心に残ったことを伝え合っている。 <観察>
7 家庭学習の課題と次時の学習の確認をする。（2）	・家庭学習として、本時のやり取りで自分が話した英文を書いてくるよう伝える。（JTE） ・次時は、本時で話した内容を基にALTに伝えることを確認する。（JTE）

【指導案作成のポイント】

- 外国語科の目標を踏まえた学習活動の工夫
 単元計画に基づき、本時では単元の目標の三つのうち、思考力、判断力、表現力等の育成につながるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する。
- 「話すこと〔やり取り〕」の指導
 社会的な話題に関して聞いたり読んだりして得られた事実や情報をやり取りのきっかけとし、生徒が自分の経験等と結び付けながら伝え合うことができるようにする。
- 言語活動の指導
 活動の途中で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた発話になっているか、全体で振り返る時間を設定する。その際、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。
- 言語活動の評価
 思考・判断・表現の評価については、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、事実や自分の考え、気持ち等を伝え合っている状況を評価する。

【学習者用デジタル教科書の活用】

生徒一人一人のペースに合わせた学びが充実するよう、学習者用デジタル教科書の音声読み上げ機能や検索機能等を使った音読練習や語彙等を確認する時間を設定する。

<とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）>

- ・視点1「子供の問題（課題）意識を高める」手立て…①
- ・視点2「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」手立て…②

特別の教科 道徳(道徳科) (小学校)

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

I 現状と課題

1 自己を見つめ、生き方についての考えを深めるための指導の工夫

導入では、自己を見つめる動機付けを図り、主題に関わる問題意識をもたせるために、生活場面の画像やアンケート調査の結果を提示するなどの工夫がされている。今後は、自己を見つめ、生き方について考えを深められるよう、展開と終末の指導を工夫する必要がある。

2 物事を多面的・多角的に考えるための手立ての工夫

自分の立場や考えを明確にできるよう、ネームプレートや色分けしたカード、1人1台端末等を活用して自分の立場を示させたり、ワークシートを工夫して書く活動を設定したりしている。今後は、児童が物事を多面的・多角的に考えられるよう、多様な学習活動の設定や発問、問い返し等を工夫する必要がある。

II 方 策

1 自己を見つめ、 生き方について の考えを深める ための指導の工 夫

- (1) 内容項目の概要を踏まえて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のいずれかに焦点を当て、ねらいを明確にして授業を構想する。その際、児童の実態を把握することや教材の活用の仕方を吟味することが大切である。
- (2) 展開では、児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れるなど、内容や教材に応じて効果的な学習を設定する。
- (3) 終末では、ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさを確認したりできるよう、教師の説話や、書く活動等の学習活動を工夫する。

2 物事を多面的 ・多角的に考え るための手立て の工夫

- (1) 児童一人一人が考えを深められるよう、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる発問や、発言の根拠や背景を聞くなどの問い返しを工夫する。
- (2) 考える時間を十分確保し、互いの考えを比べながら交流させたり、違いを板書やICT等で整理して位置付けたりする。
- (3) 考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう、指導の意図に即して、討議形式やペア・グループでの学習を取り入れる。
- (4) 児童に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化等、疑似体験的な表現活動を取り入れる。
- (5) 道徳的価値の理解を深めている児童の様子を発言やノート等から見取り、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉えるように努め、指導に生かす。

特別の教科 道徳(道徳科) (中学校)

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

I 現状と課題

1 自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深めるための指導の工夫

導入では、生徒が自分との関わりで道徳的価値を捉えられるよう、体験を想起させたり、アンケート調査の結果を提示したりするなどの工夫がされている。今後は、自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深められるよう、展開と終末の指導を工夫する必要がある。

2 物事を広い視野から多面的・多角的に考えるための手立ての工夫

自分の立場や考えを明確にできるよう、ネームプレートや1人1台端末等を活用して自分の立場を示させたり、ノート等を書く活動を設定したりしている。今後は、生徒が物事を広い視野から多面的・多角的に考えられるよう、道徳的価値の自覚を深める発問や問い返し、板書等を工夫する必要がある。

II 方 策

1 自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深めるための指導の工夫

- (1) 内容項目の概要を踏まえて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、ねらいを明確にして授業を構想する。その際、生徒の実態を把握し、教材の活用の仕方を吟味することが大切である。
- (2) 生徒が問題意識をもち、人間としての生き方についての考えを深めていけるよう、主題が明瞭となった学習を心掛けるとともに、学んだ道徳的価値に照らして自分の生活を振り返り、自らのよさや課題を把握できる場を設定する。
- (3) 終末では、生徒がねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさを確認したりできるよう、教師の説話や、書く活動等の学習活動を工夫する。

2 物事を広い視野から多面的・多角的に考えるための手立ての工夫

- (1) 生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりすることができるよう、多様な感じ方や考え方を引き出す発問や、発言の根拠や背景を聞くなどの問い返しを工夫する。
- (2) 生徒が思考を深める手がかりとなるよう、考えの違いや多様さを対比的、構造的に示す、中心部分を浮き立たせるなど板書を工夫したり、ICT等を効果的に活用したりする。
- (3) 考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合うことができるよう、自分の考えを基にした討論形式や、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れる。
- (4) 生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化等の表現活動については、取り入れる目的やねらい達成の見通しをもって行うことが大切である。
- (5) 道徳的価値の理解を深めている生徒の様子を発言やノート等から見取り、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉えるよう努め、指導に生かす。

年間指導計画の作成について

道徳科の指導計画については、「第3章 特別の教科 道徳」の第3の1において、「各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする」としている。・・・(略)・・・

なお、指導の時期、主題名、ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくい。そのような一覧表を示す場合においても、学習指導過程等を含むもの等、各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる。

(「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 文部科学省 平成29年度)

<ポイント1>

内容項目の指導時間数一覧の作成

- 当該学年で指導する内容項目を全て取り上げる。
- 児童生徒の実態等に基づき、重点的に指導する内容項目を明らかにする。
 - ・指導時間数を増やす。
 - ・網掛け等をして分かるようにする。

○各学年の内容項目の指導時間数一覧(中学校)

内容項目		指導時間数		
		第1学年	第2学年	第3学年
A	自主、自律、自由と責任	1	1	1
	節度、節制	2	3	3
B	思いやり、感謝	2	3	3
	礼儀	1	1	1
	友情、信頼	1	1	1

<ポイント2>

年間指導計画の作成上の創意工夫と留意点

- 内容項目の指導時間数一覧に基づき作成する。
- 重点的に指導する内容項目が分かるようにする。
- 教育活動全体との関連が分かるようにする。
- <指導の概要について>
- 主題構成の理由
 - ・ねらいとの関わり等、教材を選定した理由を簡潔に示す。
- 学習指導過程と指導の方法
 - ・中心的な発問が分かるようにする。
 - ・ねらいを踏まえ、教材をどのように活用するかを示す。
 - ・児童生徒の学習の流れが分かるよう簡潔に示す。
- 関連資料の活用
 - ・教材に関連した詩や動画等の資料を示す。
 - ・導入、展開、終末等の活用場面を示す。
- 他の教育活動等との関連
 - ・関連する各教科の内容、体験活動、学級経営の取組等を示す。
- 備考
 - ・活用例を記入する。

○年間指導計画(中学校第3学年)

【一覧にした事例】

月	週	内容項目 (★は重点) (主題名) 教材名<出典>	ねらい	関連資料 の活用	他の教育活動等との関連			備考
					各教科	総合的な 学習の時間 及び 特別活動・ 学級経営等	家庭・地域 との連携	
4	2	主題設定の理由 学習指導課程と指導の方法						
7	2	B 思いやり、 感謝(★) (感謝の心) 背番号10 <○○出版社>	多くの人々の善意や支えに気づき、それに感謝し、こたえようとする道徳的心情を高める。	教材に関連した動画を視聴する。	<保健体育科> 保健分野	福祉・健康	部活動参観	○高校野球のビデオ ※実践後の成果と課題を記入。

【カード化した事例】

第3学年	7月10日 第2週	内容項目(★は重点) B 思いやり、感謝(★)	No.12
主題名	感謝の心	教材名	背番号10<○○出版社>
ねらい	多くの人々の善意や支えに気づき、それに感謝し、こたえようとする道徳的心情を高める。		
主題構成の理由	仲間の温かい拍手によって主人公が部員の善意や支えに気づき、それに感謝する様子から、本主題について考えさせていくことができる教材である。		
学習指導過程と指導の方法	1 本時の主題に関わる問題意識をもつ。 ○感謝の気持ちを伝えるのは、どんなときだろう。 2 教材「背番号10」を読む。 ○なかなか寝付けなかった「僕」は布団の中で何を考えたのだろう。 ◎どうして「僕」は深々と頭を下げるという行動を取ることができたのだろう。 3 教材に関連した動画を視聴する。 4 本時で考えたことを書く。		
他の教育活動等との関連	関連資料の活用	○教材に関連した動画を視聴する。	
備考	○高校野球のビデオを視聴し、教材への興味・関心を高める。 ※実践後の成果と課題を記入。		

留意点

※指導計画の変更や修正を行う場合は、児童生徒の道徳性を養うという観点から考えて、より大きな効果が期待できるという判断を前提とする。

カード化した年間指導計画の活用にあたっての工夫

- 内容項目ごとに色分けして整理する。
- 誰もが使いやすいよう、収納ケース等に入れて保管する。
- 使用したワークシート等もカードと併せて保管する。

第6学年 道徳科学習指導案例

【指導案作成のポイント】

- 1 主題名 広い心で (内容項目 B 相互理解、寛容)
- 2 教材名 ブランコ乗りとピエロ (出典：〇〇出版社「道徳6年」)
- 3 ねらい 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を育てる。
- 4 主題設定の理由
 - (1) ねらいとする道徳的価値について
人の考えや意見は多様であり、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが必要である。相手への理解を深めていくことで… (略)
 - (2) 児童の実態について
高学年の時期は、互いのものの見方や考え方の違いをこれまで以上に意識するようになり、… (中略) 謙虚な広い心で人と接するには、…自分と異なる意見や過ちなどに対して、広い心で受け止める態度を育てたい。
 - (3) 教材について
本教材は、サーカスのリーダーであるピエロと、自己中心的な振る舞いをするブランコ乗りのサムが… (中略) 本時の授業では…ピエロとサムの両方の思いを考えることを通して、異なる意見や立場を大切にしようとする態度を育てることができると考える。
- 5 本時の展開

主題名
・年間指導計画における主題名を記述する。

ねらいと教材
・年間指導計画を踏まえてねらいを記述するとともに、教材名を記述する。

主題設定の理由
(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方
(2) ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い
(3) 使用する教材の特質やそれらを生かす具体的な活用方法

【指導方法の工夫の例】

学習活動 (配時)	指導の手立て ◆評価<方法>
○主な発問◎中心的な発問・予想される児童の思い	
1 自分の生活を振り返り、問題意識をもつ。(5) ・他の人と意見が合わないときには、どうしたらいいのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分と異なる意見や立場を理解するために大切なことは何だろう。</div>	・ ①自分の生活を想起させ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
2 教材を読み、話し合う。(30) ○控室で話をしたとき、ピエロはどんなことを考えていたのだろう。 ・サムがすごいのは分かる。でも、私だって練習していたんだから大王に見てもらいたかった。 ・サムは頑張っている。あの努力はすごい。 ・サムに負けないように、自分も頑張りたい。 ◎ピエロの言葉を聞いたサムはどんなことを考えただろう。 <役割演技に取り組んだ子供> ・お客さんが喜んでいのに、どうしてだめなんだ。 ・私がサーカスのために頑張っていることを分かってくれてうれしいよ。 ・これまではお説教されて腹が立っていたけれど、ピエロがサーカス全体のことを考えて注意してくれていたと分かったよ。 ・自分勝手なことばかりしていて悪かったな。これからは、みんなで協力していこう。 <役割演技の様子を見ていた子供> ・ピエロと会話している中でサムは少しずつ変わっていったことに、役割演技を見て気付いた。 ・ピエロは、リーダーとしてサムや団員のことを考えて話をしていると思う。 ・サムもピエロも自分のことだけ考えていたら、二人は仲よくできない。お互いに相手のことを考えるとう理解し合えると思う。 ○二人について、あなたはどうか考えますか。 ・私だったら、ピエロのようにサムを許すことができるか分からない。でも、同じ目標に向かっていくことが分かったら、許すことができるかもしれない。 ・私もサムみたいに自分が頑張っていることを認めてもらえたら、素直になれると思う。 ・二人が分かり合えてよかった。他の人と意見が合わないときは、相手の気持ちや立場や考えと分かり合える。	・登場人物を自分との関わりで考えることができるよう、 ①教材を読み始める前に、挿絵等を使って登場人物や状況を表す。 ・互いに腹を立てていたことや理解し合うのは難しいという人間の弱さを押さえる。 ・サムの変容に気付くことができるよう、「ピエロの言葉が、サムの耳に強く残った」場面を取り上げ、役割演技を行う。 ・自分の考えをもつことができるよう個で考える時間を確保する。 ・多様な考え方や感じ方に接することができるよう、見ている児童に考える視点を与え、感想を聞く。 ・構造的な板書を工夫し、ピエロとサムの変容に着目できるようにする。 ・ ②導入の生活経験を再度想起し、自分との関わりで考えるように促す。
3 本時で考えたことを書く。(10) ・これまで、自分と違う意見や立場をよく知る前に否定していたと思う。まずは、相手の意見を聞いてみるのが大切だと考えた。 ・相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考えたい。	・自分自身を振り返り見つめることができるよう、 ③ワークシートに本時を通して考えたことを書く時間を確保する。 ・ねらいとする道徳的価値について、多面的・多角的に捉えることができるよう、学習者用端末のワークシートに入力し、共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◆広い心をもつことについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えている。 <発言、ワークシート></div>

教材提示の工夫
◎想像を膨らませ、思考を深められるようにする。
・ICTの効果的な活用(音声、音楽、映像)
・紙芝居、人形やペープサートの提示等

発問の工夫
◎問題意識や疑問等を生み出し、多様な感じ方や考え方を引き出すようにする。
・児童生徒に考える必然性や切実感のある発問等
・物事を多面的・多角的に考えさせる発問等

話し合いの工夫
◎考えを出し合う、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるようにする。
・座席の配置(コの字型、円形型、劇場型)
・討議形式
・話し合いの構成人数(ペア、小グループ、一斉)等

表現活動の工夫
◎動きや言葉を模倣して理解を深めるなど、自分の考えを表現できるようにする。
・教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える疑似体験的な表現活動の工夫
・実際の場面の追体験や道徳的行為をしてみること等

板書の工夫
◎思考を深める重要な手がかりとなるようにする。
・違いや多様さを対比的、構造的に示す板書
・中心部分を浮き立たせる板書
・児童生徒の考えを取り入れ、共につくっていくような創造的な板書等

書く活動の工夫
◎自ら考えを深めたり、整理したりする機会となるようにする。
・自分自身とじっくり向き合う時間の確保
・学習を継続的に深めるノートの活用等

【評価に当たって】

学習活動において、児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から**多面的・多角的な見方へと発展しているか**、道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視する。

<とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)>

- ・視点1「子供の問題(課題)意識を高める」手立て…**①**
- ・視点2「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」手立て…**②**

総合的な学習の時間 (小学校)

横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく児童を育てる。

I 現状と課題

1 探究的な学習の充実

探究的な学習になるよう、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程を意識した単元が構想されている。さらに、児童が問題解決的な活動を発展的に繰り返しながら学習を進めていけるよう、探究的な学習を充実させていく必要がある。

2 自らの考えを広げ深める協働的な活動の重視

多様な情報を共有するために、収集した情報を伝え合う場が設定されている。今後は、自らの考えを広げたり、深めたりするために、他者と協働して課題を解決していく学習活動を重視していくことが大切である。

II 方 策

1 探究的な学習の充実

- (1) 問題解決的な活動を発展的に繰り返しながら学習を進めていけるよう、四つの学習過程を固定化された順序と捉えず、前後する、同時に展開する、ある学習活動を重点的に行うなど、児童の探究の過程をイメージして単元を構想する。
- (2) 充実した探究的な学習となるよう、学習活動を工夫する。
 - ア 「課題の設定」では、一人一人の疑問や関心を大切にし、人・社会・自然に直接関わる体験活動を設定する。その際、人・もの・こと等の学習対象との関わり方や出会わせ方等を工夫する。
 - イ 「情報の収集」では、各教科等で身に付けた資質・能力を生かせる体験活動を取り入れるとともに、それらで得た情報を蓄積し、課題解決の過程で活用できるようにする。
 - ウ 「整理・分析」では、情報を比較・分類したり、関連付けたりするなどの「考えるための技法」を活用できる学習活動を取り入れる。
 - エ 「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にし、新聞やプレゼンテーション等の表現方法を選択して、他者に伝えたり、自分自身の考えをまとめたりする学習活動を取り入れる。

2 自らの考えを広げ深める協働的な活動の重視

- (1) 目的や課題を明確にしたり、新たな追究の視点を見いだしたりできるよう、学級全体等で収集した多様な情報を出し合って整理し、互いの発見の共通点や相違点、関連性について考える場を設定する。
- (2) 力を合わせて取り組むことの大切さや地域に関わる喜び、人や社会とつながり関わることによさと心強さを実感できるよう、地域の人や専門家等との交流の場を設定する。
- (3) 児童が自分の考えを見つめ直し、自分のよさや可能性に気付くことができるよう、異なる立場や視点、考えをもつ児童同士や地域の人等と意見交換するなど、互いに教え合い学び合う場を工夫する。

総合的な学習の時間 (中学校)

横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく生徒を育てる。

I 現状と課題

1 探究的な学習の充実

探究的な学習になるよう、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程を意識した年間指導計画が立てられている。さらに、生徒が問題解決的な活動を発展的に繰り返しながら学習を進めていけるよう、小学校の学習経験も踏まえ、探究的な学習を充実させていく必要がある。

2 探究的な学習の質を高める協働的な活動の重視

多様な情報を共有するために、収集した情報を伝える場が設定されている。今後は、事象に対する認識を深め、探究的な学習の質を高めていくために、他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動を重視していくことが大切である。

II 方 策

1 探究的な学習の充実

- (1) 生徒の学習経験やそこから得られた成果を生かすことができるよう、小学校の学習で訪れた場所や関わった人等を把握して年間指導計画に記載するなど、学習の質的な高まりについて十分に検討して指導計画を構想する。
- (2) 問題解決的な活動を発展的に繰り返しながら学習を進めていけるよう、四つの学習過程を固定化された順序と捉えず、前後する、同時に展開する、ある学習活動を重点的に行うなど、生徒の探究の過程をイメージして単元を構想する。
- (3) 充実した探究的な学習となるよう、学習活動を工夫する。
 - ア 「課題の設定」では、実社会や実生活にある解決すべき問題と向き合い、取り組むべき課題を自ら見いだすことができるよう、学習対象に直接触れる体験活動を意図的に設定する。
 - イ 「情報の収集」では、各教科等で身に付けた資質・能力を生かし、目的を明確にした体験活動を通して、情報を蓄積し、課題解決の過程で活用できるようにする。
 - ウ 「整理・分析」では、情報を比較・分類したり、関連付けたりするなどの「考えるための技法」の活用を図る。その際、生徒自身が情報を吟味することや情報の整理・分析の方法を決定することに配慮する。
 - エ 「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にし、レポートや新聞、プレゼンテーション等の表現方法を自ら選択して、他者に伝えたり、自分の考えをまとめたりする学習活動を取り入れる。

2 探究的な学習の質を高める協働的な活動の重視

- (1) 新たな追究の視点を見いだしたり、改めて目的や課題を明確にしたりして探究的な学習の質を高めることができるよう、学級全体等で収集した多様で多くの情報を出し合って整理し、互いの発見の共通点や相違点、関連性について考える場を設定する。
- (2) 社会に関わり参画しようとする意志や社会を創造する主体としての自覚を、一人一人の生徒の中に徐々に育成できるよう、地域の人や専門家等に自ら働きかけ、交流を通して学ぶ活動を重視する。
- (3) 学習対象に対する認識や自分の考えを深めることができるよう、様々な視点から検討したり、関心や経験が異なる生徒同士が意見交換したりする場を設定する。さらに、学んだことを自分と結び付け、自分の成長を自覚したり、自己の生き方を考えたりすることができるようにする。

特別活動 (小・中学校共通)

自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、よりよい人間関係を築き、自己実現を図ろうとする児童生徒を育てる。

1 児童生徒の自主的、実践的な態度と自己を生かす能力を育てる「指導と評価の計画」を作成する。

- (1) 学校の創意工夫を生かし、各教科等との指導の関連を図りつつ、全教職員の協力の下で、全体計画と学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動(小)及び学校行事の年間指導計画を作成する。
 - ア 学級活動や児童会・生徒会活動、学校行事等の内容について、児童生徒の発達の段階や実態を踏まえて重点化し、内容相互の関連を図る。また、育てたい姿を明確にした活動となるように配慮する。
 - イ 家庭や地域社会との連携や、社会教育施設等の活用を図り、自然の中での集団宿泊活動、社会体験、異年齢交流等を含む多様な人々との交流体験を取り入れる。
 - ウ 道徳教育との関わりにおいて、自己や人間としての生き方についての考えを深めることができるよう、道徳教育の重点等を踏まえて関連を図りながら、よりよい学級や学校の生活、人間関係を築こうとする実践的な活動を取り入れる。
 - エ 「指導と評価の計画」となるよう、事前・事後の活動を含め、配当回数や時期を明確にする。
- (2) 全体計画に基づき、学級の「指導と評価の計画」を作成する。その際、児童生徒の実態を踏まえて指導内容を重点化するとともに、ねらいを明確にした創造的な活動に取り組みせ、新たな目標や課題をもてるように評価するなど、指導方法と評価方法を工夫する。

2 一人一人のよさや個性を生かし、自主的、実践的な活動を推進する。

合意形成

意思決定

- (1) 学級活動

学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を育てる。

 - ア 「学級や学校における生活づくりへの参画」では、児童生徒が思いや願いを基に集団生活上の課題を解決するための話し合いを行い、合意形成して実践する経験を積むことができるようにする。
 - イ 「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」では、自己の生活上の課題を解決するために、意見を出し合う場を設定し、児童生徒が多様な考えを参考に解決方法等を意思決定して、実践できるようにする。
 - ウ 「一人一人のキャリア形成と自己実現」では、個々の児童生徒の将来に向けた自己実現に関わる内容を取り上げ、一人一人の個性を生かし、主体的な意思決定に基づく実践につなげる。その際、児童生徒が活動を記録し蓄積する教材「キャリア・パスポート」を活用する。
- (2) 児童会・生徒会活動

児童生徒自身が計画を立て役割を分担し、自主的、実践的に取り組めるよう、活動に必要な機会を計画的に確保する。

(3) 学校行事

体験的な活動を通して、よりよい学校生活を築き、集団への所属感や連帯感、公共の精神を養えるようにする。また、実施後の感想や作文を発表させたり、校内に掲示したりするなど、児童生徒が互いに伝え合う環境や保護者や地域に対して発信する機会を整え、指導の効果を高めるようにする。

(4) クラブ活動（小学校）

児童の意見や希望を反映し、異年齢集団の交流を深めながら共通の興味・関心を追求する主体的な活動を通して、自主的、実践的な態度を育て、個性の伸長を図る。

3 多面的・総合的な評価を工夫し、指導に生かす。

- (1) 一人一人のよさや可能性を積極的に認めるとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他者とともに協調できる豊かな人間性や社会性を育成するという視点から評価を進める。
- (2) 活動の結果だけでなく、活動の過程における児童生徒の努力や意欲等を積極的に認めたり、児童生徒のよさを多面的・総合的に評価したりする。
- (3) 児童生徒の活動意欲を喚起するために、集団活動や自らの実践のよさを知り、自信を深め、課題を見いだし、それらを自らの実践に生かせるような児童生徒の自己評価や相互評価を充実させる。
- (4) 各活動実施後の児童生徒の振り返り、保護者や地域住民からの感想や要望、及び教職員の評価内容を反映させて、改善につなげる。

参考資料

○みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】（指導資料）	国立教育政策研究所 平成30年度
○学校文化を創る特別活動【中学校・高等学校編】（指導資料）	国立教育政策研究所 令和5年度
○小学校特別活動映像資料【学級活動編】	国立教育政策研究所 令和4年度
○小学校特別活動映像資料【児童会活動・クラブ活動編】	国立教育政策研究所 令和5年度
○キャリア・パスポートって何だろう？	国立教育政策研究所 平成30年度
○富山県キャリア教育資料「キャリア・パスポートのすすめ」	富山県教育委員会 令和元年度
○小学校 キャリア教育の手引き	文部科学省 令和3年度
○中学校・高等学校 キャリア教育の手引き	文部科学省 令和4年度
○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 特別活動(小学校)	国立教育政策研究所 令和元年度
○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 特別活動(中学校)	国立教育政策研究所 令和元年度
○生徒指導提要	文部科学省 令和4年度
○小・中学校向け主権者教育指導資料 「主権者として求められる力」を子供たちに育むために	文部科学省 令和4年度

特別活動《学級活動》 (小学校)

課題解決のための話し合いを通して、合意形成や意思決定をして実践しようとする児童を育てる。

I 現状と課題

1 集団生活上の課題を解決する話し合いと事後の活動の充実

学級活動(1)では、児童が切実感をもって話し合いが行えるよう、議題や提案理由、アンケート結果等を掲示するなど、事前の指導が工夫されている。今後は、児童が自治的能力を身に付けられるよう、集団生活上の課題を解決するための合意形成を図る話し合いや決めたことの実践、振り返りの活動を更に充実させる必要がある。

2 自己指導能力を高める話し合いと事後の活動の充実

学級活動(2)、(3)では、児童が自分事として課題をつかみ、話し合うことができるよう、教材や資料を工夫した指導が行われている。今後は、自己指導能力を高めることができるよう、話し合いを通じた意思決定、粘り強い実践と定期的な振り返り、次の課題解決につながる活動を更に充実させる必要がある。

II 方 策

1 集団生活上の課題を解決する話し合いと事後の活動の充実

- (1) 学級活動(1)では、児童や教師の思いを基に学級目標を決定し、常に意識できるようにするとともに、児童自らが生活上の諸課題に気づき、合意形成して実践することができるようにする。また、議題ポストを設置したり、学習者用端末や学級会ノートを活用したりするなど、児童の自発的、自治的な活動になるように工夫する。
- (2) 円滑な学級会の進め方等について、全教職員の共通理解の下で、小学校の6年間を見通した計画的な指導を行う。
 - ア 低学年では、自分の意見を発表したり他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解することができるようにする。
 - イ 中学年では、理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見を受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践することができるようにする。
 - ウ 高学年では、相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践することができるようにする。
- (3) 児童が話し合っただけ決めたことを基に、役割を分担し、全員で協力して実践する時間を確保する。
- (4) 実践を振り返り、評価したり感想をまとめたりして発表する時間等を設定し、次の課題解決につなげようとする意欲を高める。

2 自己指導能力を高める話し合いと事後の活動の充実

- (1) 学級活動(2)では、話し合いを通して児童一人一人が学習や生活の目標を意思決定し、その実現に向けて実践するよう指導する。
 - ア 児童が課題について多面的・多角的に考え、自分に合った解決方法を意思決定できるよう、適切な情報や資料を活用するなど指導を工夫する。
 - イ 児童が活動の振り返りを大切にして、どうすれば改善できるかを繰り返し考えられるようにする。
- (2) 学級活動(3)では、現在及び将来の生き方を考える基盤となる内容を取り上げ、主体的な意思決定に基づく実践につなげるように指導する。
 - ア 学級や学校生活をよりよくするため、目標を立てて行動したり、友達の意見等を参考にしながら自己のよさや実現できそうな課題を具体的に考えたりすることができるようにする。
 - イ 気付いたことや考えたこと等について、「キャリア・パスポート」等に記録と蓄積を行うとともに、それらを振り返りながら、新たな学習や生活への目標、将来の生き方等について考えることができるようにする。

学習活動の内容

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」
学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」

特別活動《学級活動》 (中学校)

課題解決のための話し合いを通して、合意形成や意思決定をして実践しようとする生徒を育てる。

I 現状と課題

1 集団生活上の課題を解決する話し合いと事後の活動の充実

学級活動(1)では、生徒主体の話し合いとなるよう、アンケート結果に基づく切実感のある議題を学級全体で設定するなど、事前の指導が工夫されている。今後は、自治的能力や社会参画する力を育てることができるよう、合意形成を図る話し合いや協働的な実践、振り返りの活動を充実させる必要がある。

2 自己指導能力を高める話し合いと事後の活動の充実

学級活動(2)、(3)では、自分事として課題を捉えることができるよう、問題意識を高める資料提示や各教科等との関連を図った指導が工夫されている。今後は、自己指導能力を育てることができるよう、話し合いを生かした意思決定や粘り強い実践、振り返りの活動を充実させる必要がある。

II 方策

1 集団生活上の課題を解決する話し合いと事後の活動の充実

- (1) 学級活動(1)では、学級としての議題選定や話し合い、合意形成と実践を重視し、生徒が自分らしさを発揮して取り組めるようにする。
- (2) 学級や学校での生活の充実・向上を図るために、生徒一人一人が自覚と責任感に基づいて、協力して課題解決に取り組めるようにする。
 - ア 学級や学校の生活上の諸課題を解決するために、グループや学級全体での話し合い等、集団としての意見をまとめる時間を確保する。
 - イ 集団としての意見をまとめる話し合い活動等においては、小学校からの積み重ねや経験を生かし、発展させることができるようにする。
 - ウ 生徒が話し合っただけで決めた学級の目標の実現に向けて、組織づくりやルールづくりを行う活動を設定し、課題解決に必要な役割を自覚できるようにする。
 - エ 個々の生徒を共感的に理解し、教師と生徒との信頼関係を深め、自由かつ率直に意見を述べるができる雰囲気をつくる。
- (3) 決定した解決方法や活動内容を責任をもって実践できるように指導する。
- (4) 実践を定期的に振り返り、結果を分析することで、次の課題解決へとつなぐことができるようにする。

2 自己指導能力を高める話し合いと事後の活動の充実

- (1) 学級活動(2)では、話し合いを生かして、一人一人の課題の理解と自覚を促し、意思決定して実践できるように指導する。
 - ア 生徒が自分事として課題を捉えることができるよう、必要感のある題材を取り上げるよう努める。
 - イ 各教科担任や養護教諭、栄養教諭等の専門性や家庭・地域との連携を生かした話し合いの場を設定するなどして、指導の効果を高める。
 - ウ 一連の活動を振り返って成果や課題を確認することで、更なる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めることができるようにする。
- (2) 学級活動(3)では、話し合いを生かして、生徒の主体的な意思決定に基づく実践を促し、適切な進路選択や自分らしい生き方を実現できるようにする。
 - ア 話し合いの中で、保護者や卒業生、地域の職業人等の体験談を取り入れるなど、自己の将来に関する考えを深めることができるように工夫する。
 - イ 「キャリア・パスポート」等を活用し、活動の過程を振り返ることで、新たな目標や将来の生き方等について考えることができるようにする。
- (3) 集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、一人一人の課題に対応した指導を行うカウンセリングの双方の趣旨を踏まえて指導を行う。